櫻島大爆發寫眞帖

鹿兒島縣

櫻島大爆發寫眞帖

序

突如、一大飛報は吾人の耳朶を衝きて到る、時は之れ大正三年一月十二日午前九時四十分に突發せる、鹿兒嶋縣下櫻嶋大爆發の一大悲慘事なり。

茲に於てか、性來擧止一の意氣を有する、吾人は機に觸れ、事に際り、克く抑壓すること能はざる、況んやこの機會に於てをや、忽ち決する處あり蹶起一番、實況を索るべく冒險的首途に就き、止ること四旬余。

蓋し其の凄絶慘絶の狀は、想像も尙ほ及ばざるもの。然れども、當時幾多新聞紙上にて巨細報導したるなれば、諸氏既に熟知せらるゝならんと信ずるが故に、敢へて禿筆を驅らずと雖ども、或は些か隔靴搔痒の感なきを保する能はず。

例せば、不斷の火山的地震は、山谷林野を震撼し、熱石灰砂は飛騰降散し、道途は到るところ龜裂噴焰し、爲めに家屋の崩壞、人畜の死傷算なく四邊數里樹草全く枯死し、昨の沃野膏土は、砂礫熔岩荒凉の瘠地と化し終り、眞に筆舌の能く盡くすところにあらず。

而して吾人揮身の勇を奮ひ、熱砂焦土の上を四方に馳驅し、時に或は噴火口を距る、僅かに丁余の所、猛焰に烟び、危險を排し、死を冒かして、能ふ限り詳密を期し、幸に携ゑ行けるカメラに收め、聊か微恙なく歸來するを得たるは、誠に天祐と稱せずして奈んぞや。

然かも、這回之れを輯錄して一冊の寫眞帖となし、諸彥の眼前に披瀝し、坐らにして其の實狀を寛知せらるゝの便と爲し得るは、吾人の一大光榮とするもの。

冀はくば、同情の念に富める、大方の諸彥この一本を備ゑられ、この一大悲慘事の實況を、永遠に偲び、追憶の紀念ともせらるゝを得ば、豈に獨り吾人の欣懷のみならんや。

大正三年三月　　編者識

目次

一櫻島被害地圖

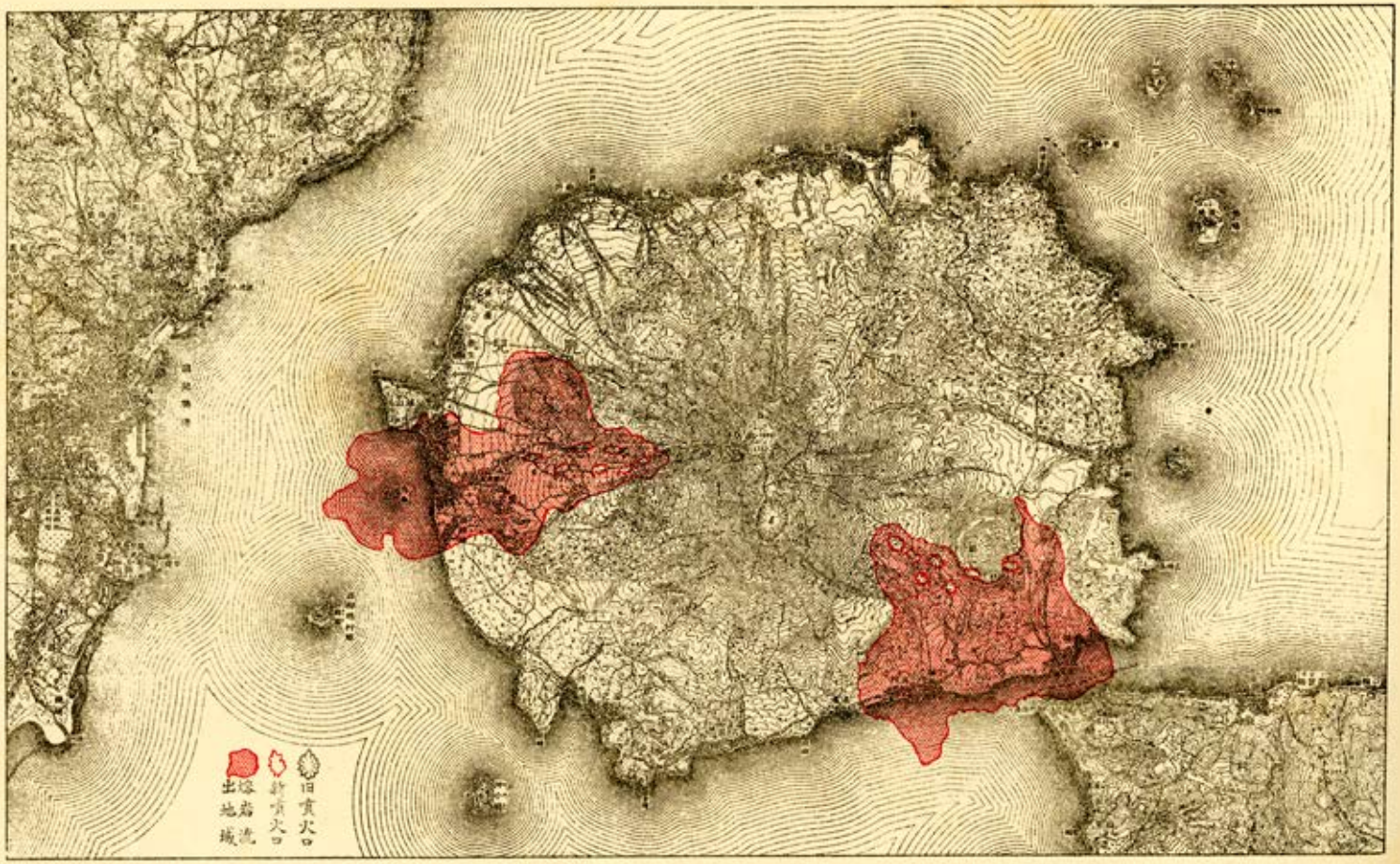
〔寫眞版〕

1 爆發四日前の櫻島
2 一月十二日午前爆發の瞬間
3 海岸第一棧橋より噴火を望む（一月十三日午前の光景）
4 鹿兒島海岸より噴煙を望む
5 十五日の光景
6 一時鹿兒島灣に充滿せる輕石
7 鹿兒島港より噴煙を望む（十六日の光景）
8 鹿兒島港へ着せる櫻島避難船
9 鹿兒島市城山より噴煙を望む
10 東櫻島方面第一位噴火口
11 東櫻島方面第二位噴火口
12 東櫻島鍋山の噴煙
13 前面最上位の噴火口
14 前面第二位の噴火口
15 引ノ平より前面第三位噴火口噴煙を望む
16 赤水全滅跡より第四位噴火口を望む
17 黑焦となれる樹林
18 西櫻島村赤水部落全滅の跡
19 大坂毎日新聞記者及第七高等學校學生探檢隊一行
20 十五日午後の光景（左に見ゆるは漁船の燒けるもの）
21 探險隊一行噴火口に向つて進む
22 一月十七日大坂毎日新聞記者及第七高等學校生徒前面噴火口探檢
23 西櫻島村横山の全滅
24 西櫻島村赤生原一帶の慘狀
25 西櫻島村小池一帶の慘狀
26 袴腰附近の熔岩及輕石廣原
27 西櫻島村武部落の燒林
28 西櫻島村横山部落熔岩及輕石の爲めに埋沒す
29 エビノ塚より鍋山全景を望む
30 東櫻島方面灰石の廣原

31 東櫻島黑神の慘狀（神社附近の降灰一丈）
32 降灰の爲め埋沒せる黑神小學校
33 東櫻島村黑神の慘狀（降灰後洪水の爲め流失家屋多し）
34 降灰輕石の爲め埋沒せる牛根村の慘狀
35 降灰中の牛根村より噴煙を望む
36 瀨戸の熔岩戸柱鼻へ進む
37 東櫻島村脇海岸の熔石
38 熔岩流出して櫻島大隅に接續し瀨戸海峽全く閉塞す
39 灰石堆積せる咲花平街道
40 有村海岸熔岩の水蒸氣
41 有村上方より見たる噴煙
42 赤生原上方面熔岩及噴火口の一部
43 前面一帶猛裂に流出せる熔岩
44 前面の熔岩流出海中十余丁に及び海水熱して寒中入浴に適す
45 西櫻島城山海岸倒壞家屋及牛馬の漂着
46 噴火口最上位破裂晴より神瀨を遠望す
47 袴腰より俯瞰したる海中へ流出せし熔岩
48 大隅戸柱鼻附近の被害と牛根村避難民
49 雪景の如き海潟の慘狀
50 大隅垂水町の被害
51 鹿兒島市海岸通りの倒壞家屋
52 天保山より熔岩の水蒸氣を望見す
53 激震を蒙れる甲突川畔道路の龜裂
54 降灰せる鹿兒島市街
55 罹災民避難所（西本願寺別院）
56 袴腰に着せる慰問團隊及見學客船
57 噴火
58 石磯より噴煙せる櫻島を望む
59 祇園の洲より櫻島噴煙を望む
60 變災前の瀨戸海峽

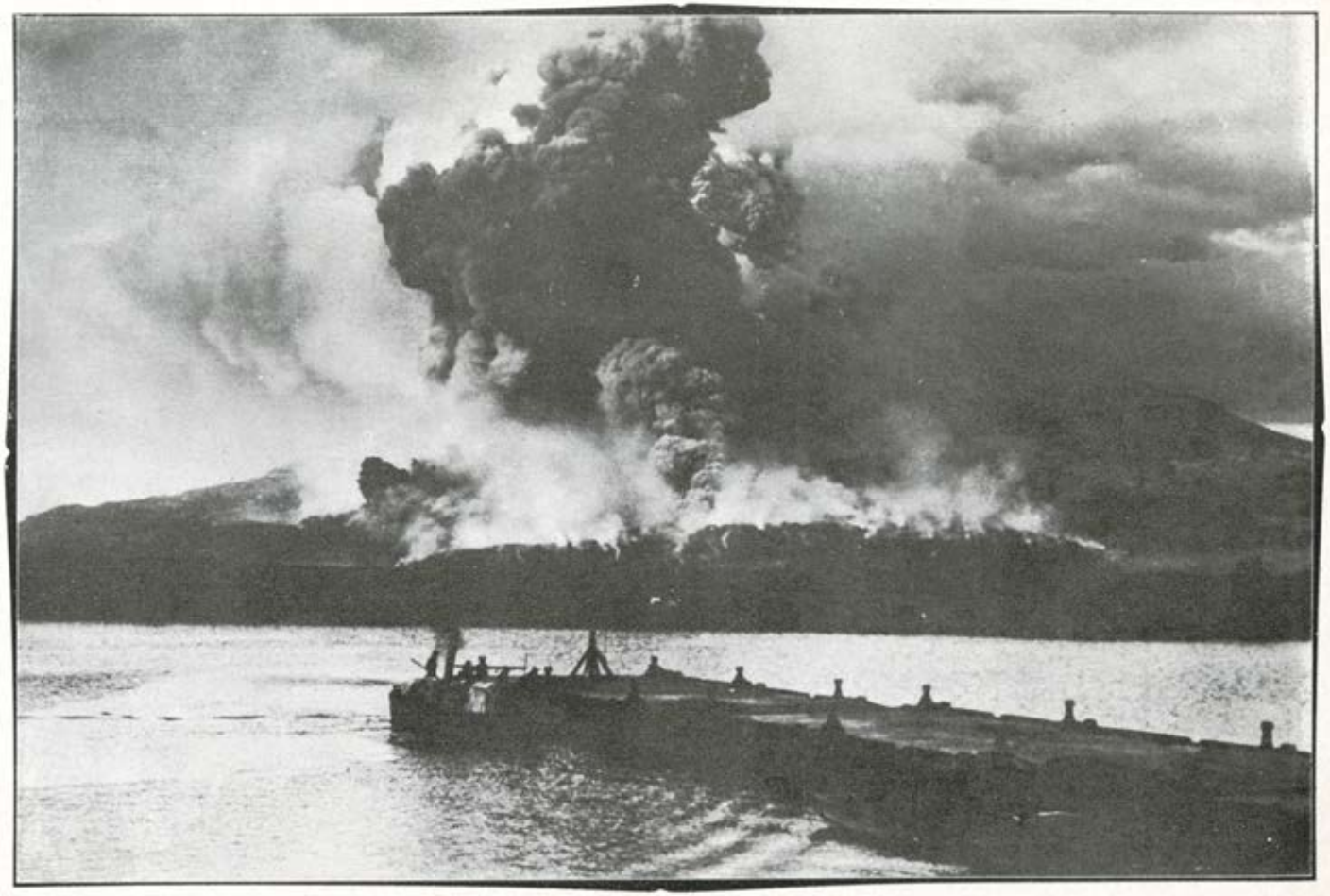
附　櫻島大爆發記

櫻島地圖

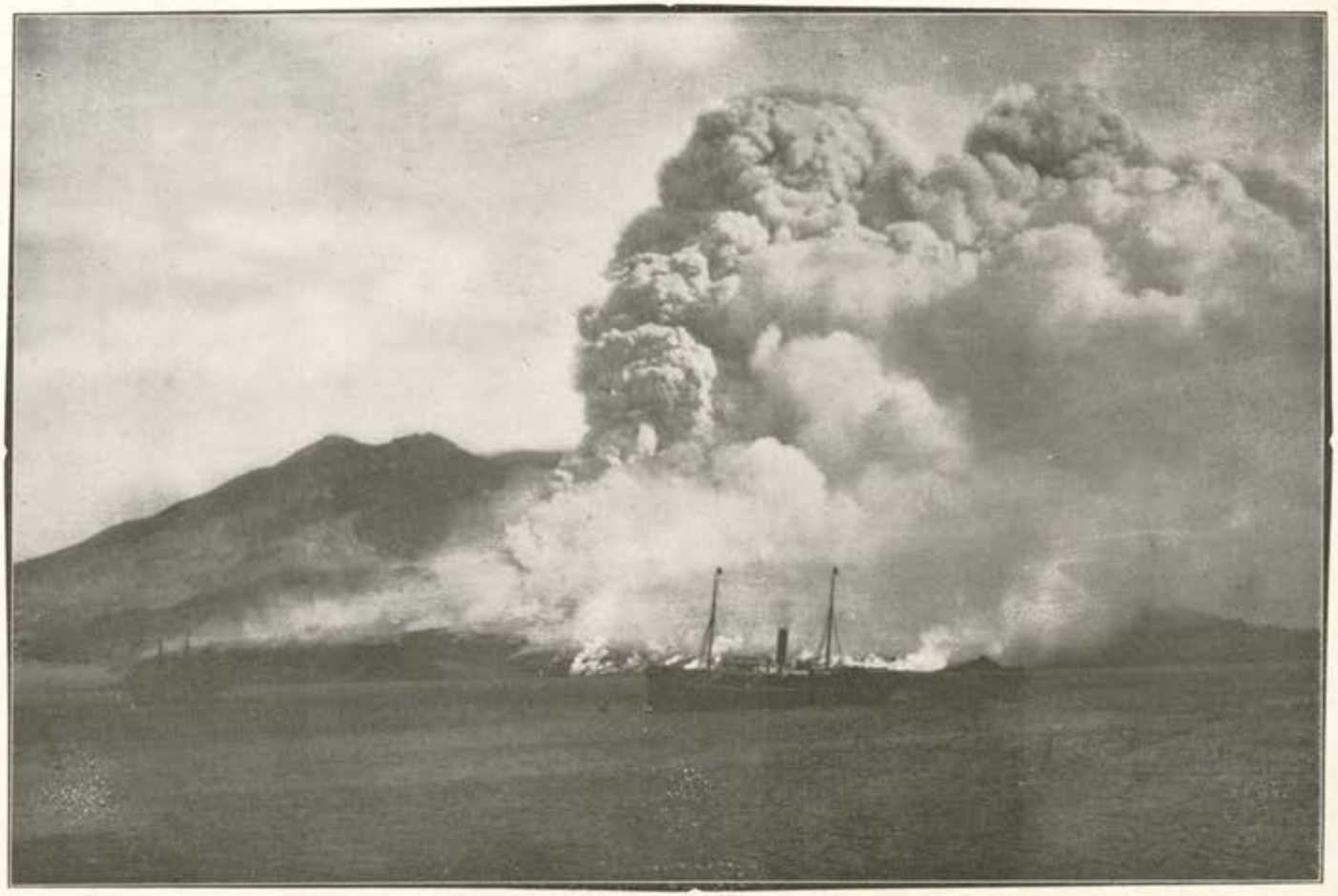


(景雪)島櫻の前日四發爆

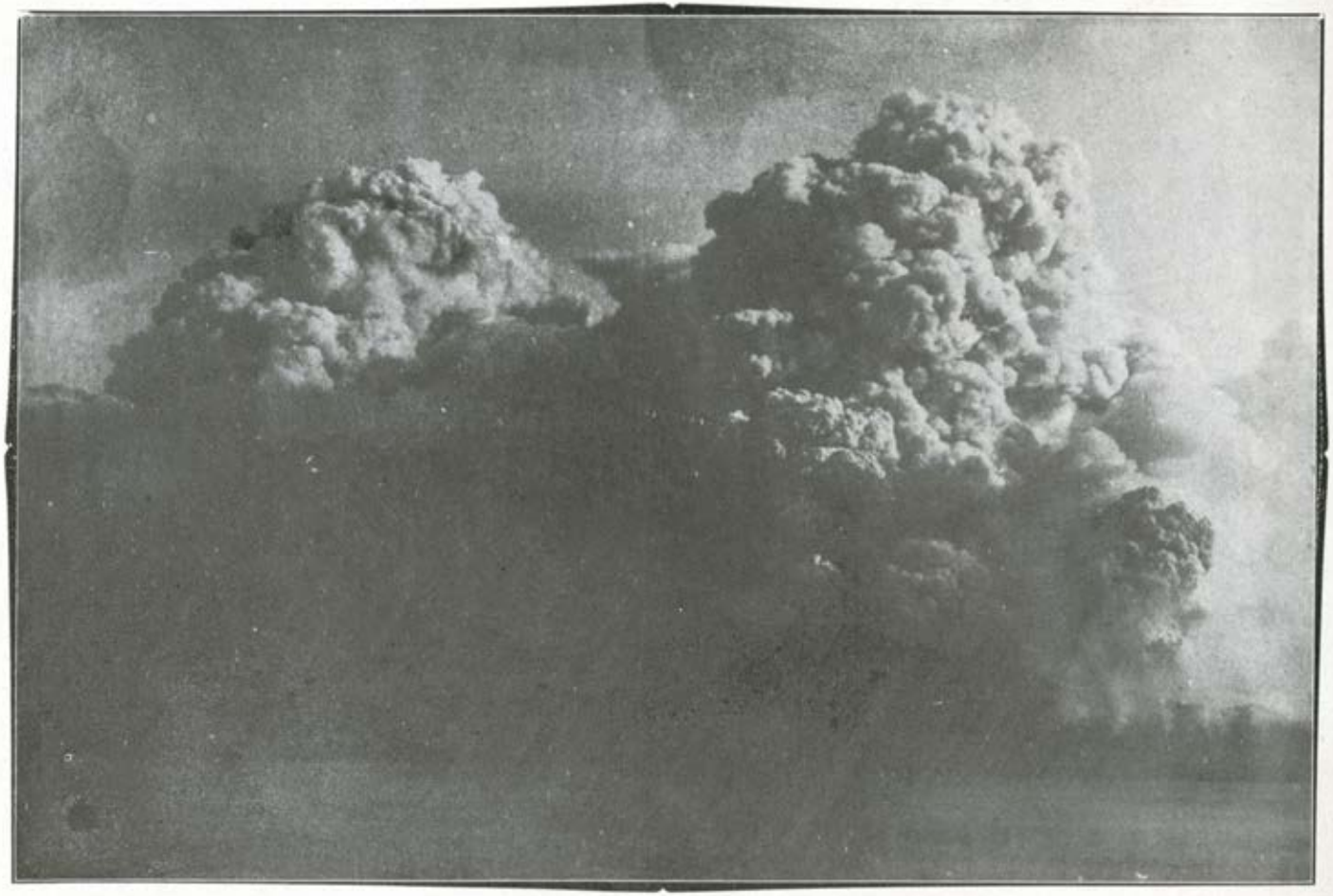
一月十二日午前爆發の瞬間



海岸第一桟橋より噴火を望む(一月十三日午前の光景)

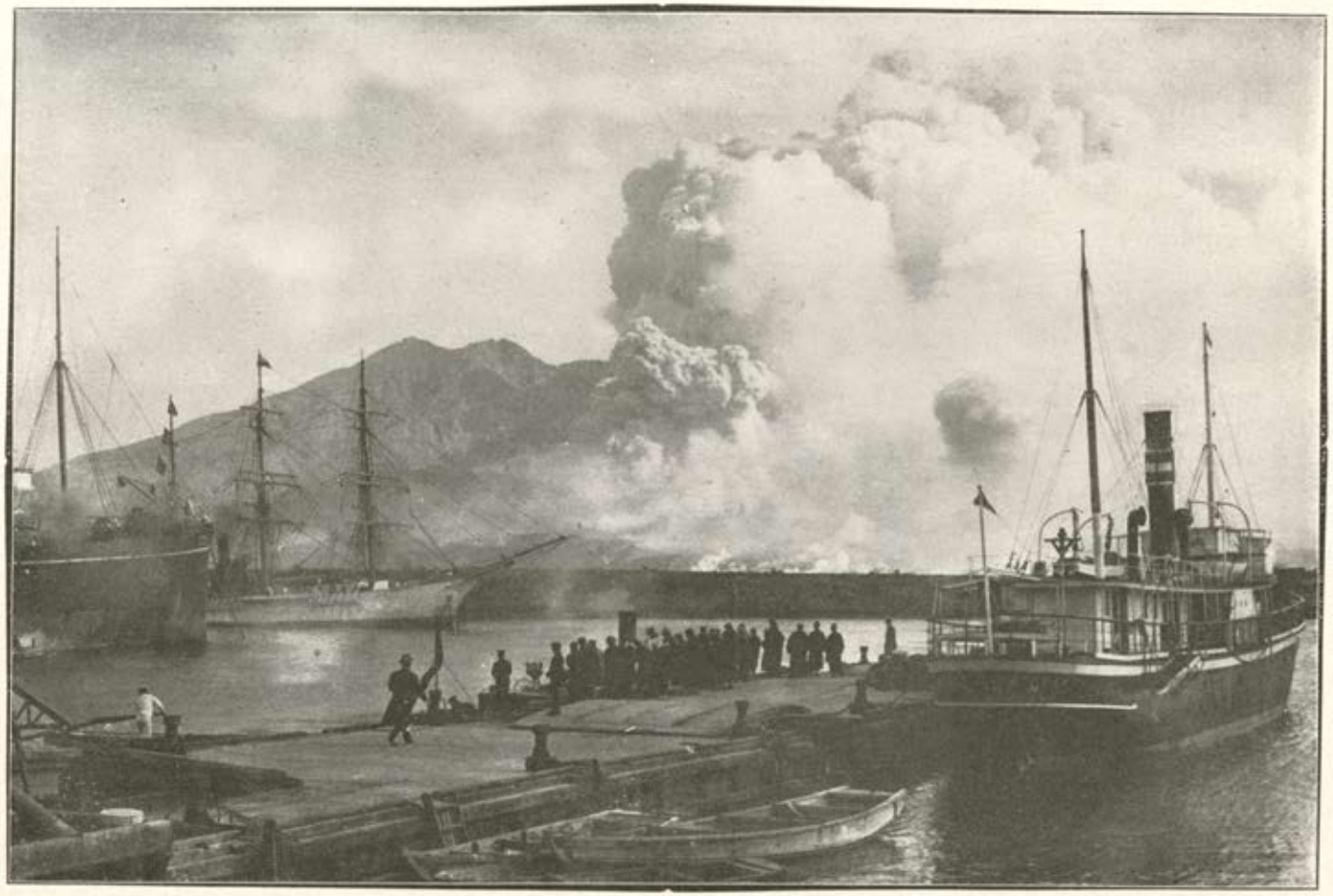


鹿兒島海岸より噴煙を望む(十五日の光景)



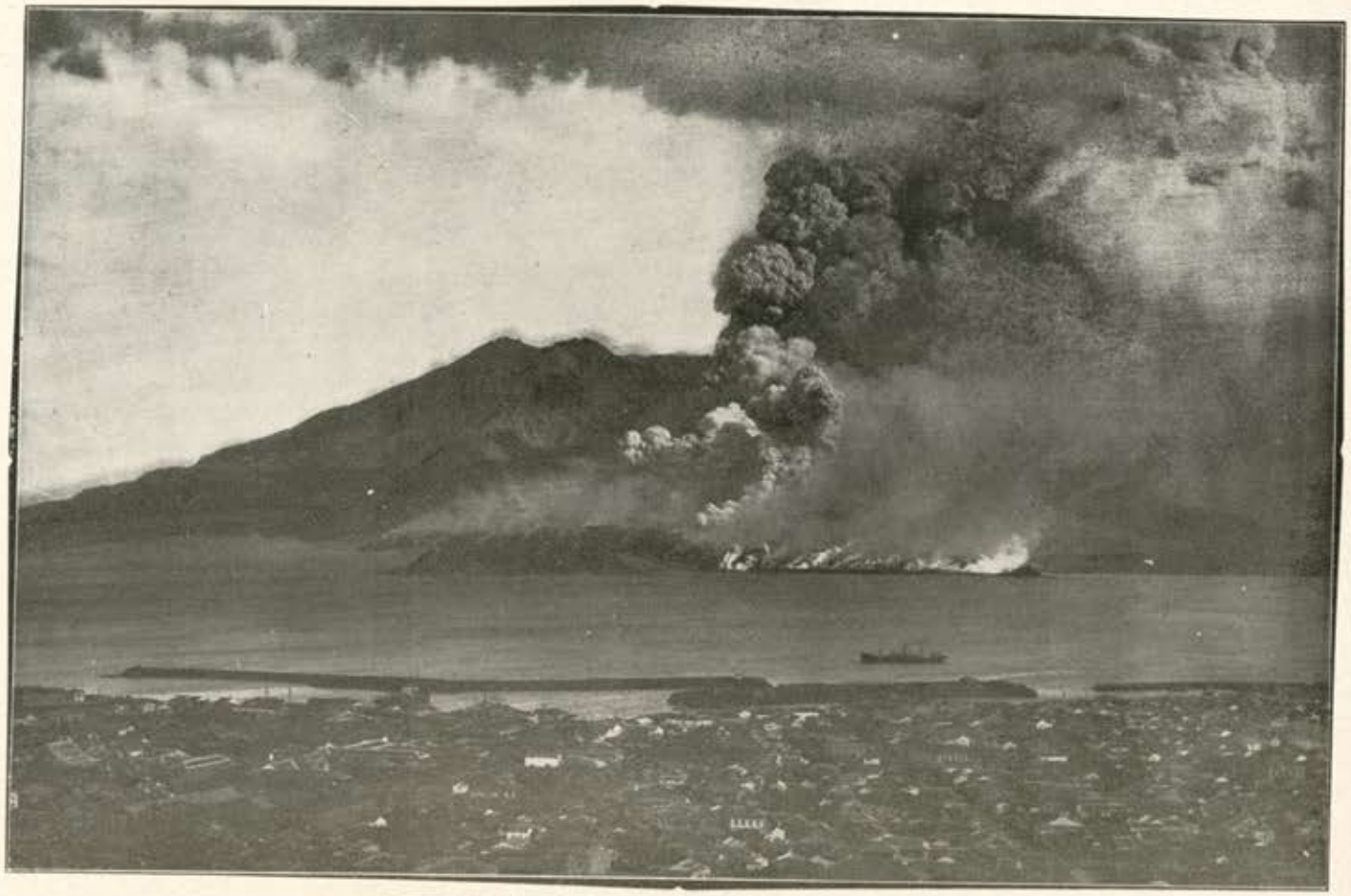
十五日の光景

一時鹿兒島灣に充滿せる輕石

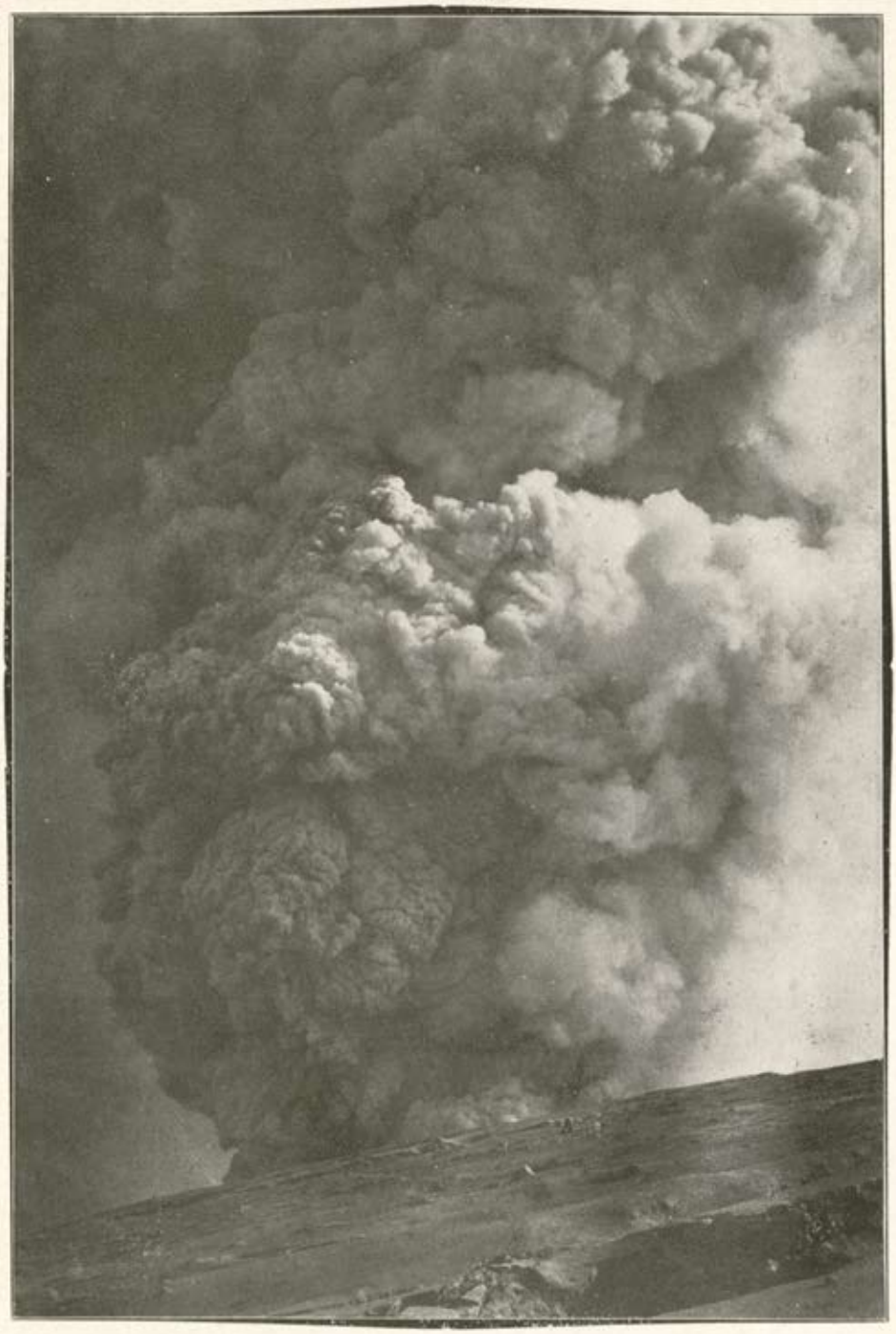


鹿兒島港より噴煙を望む(十六日午后の光景)

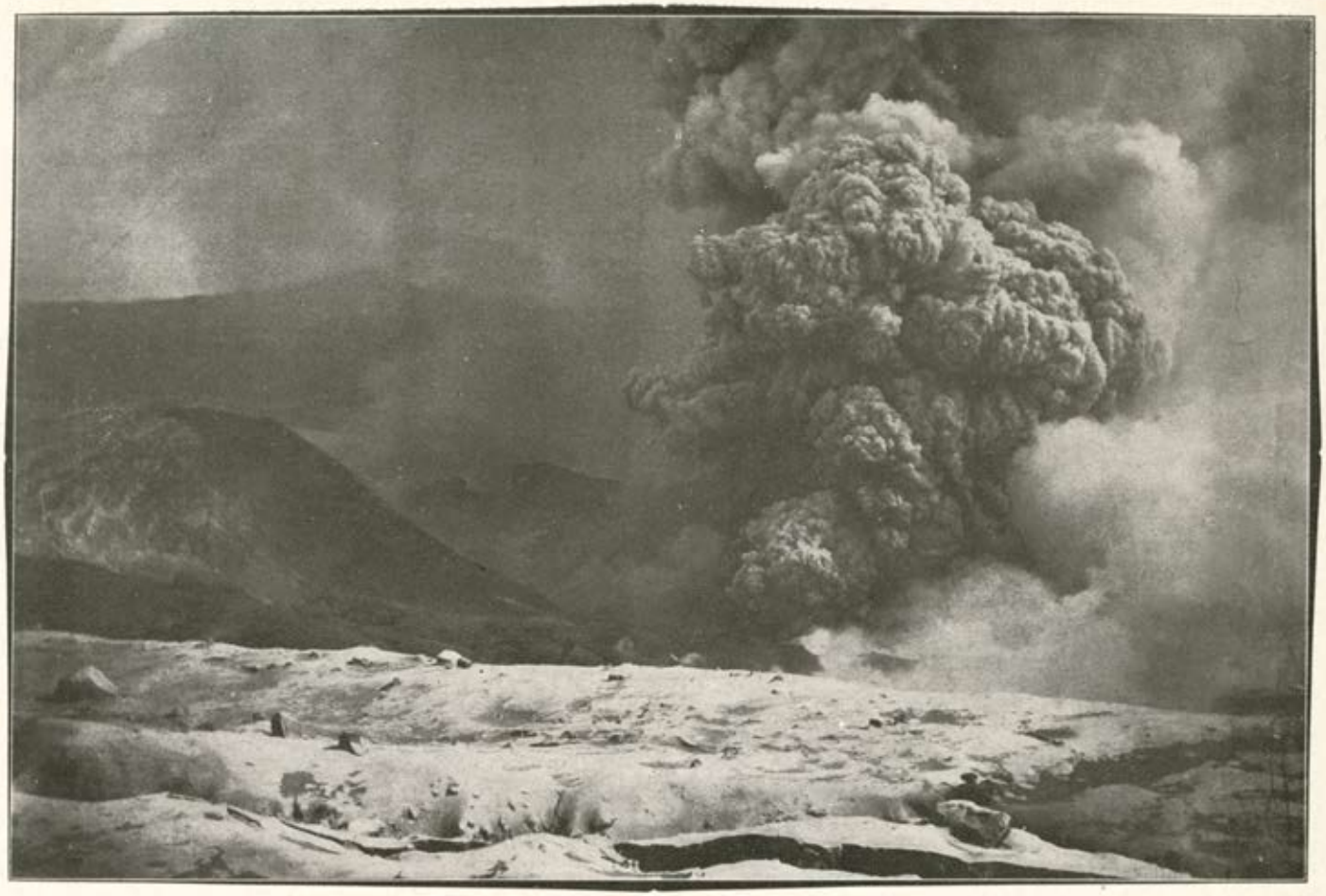
鹿兒島港へ着せる櫻島避難船



鹿兒島市城山ヨリ噴煙を望む

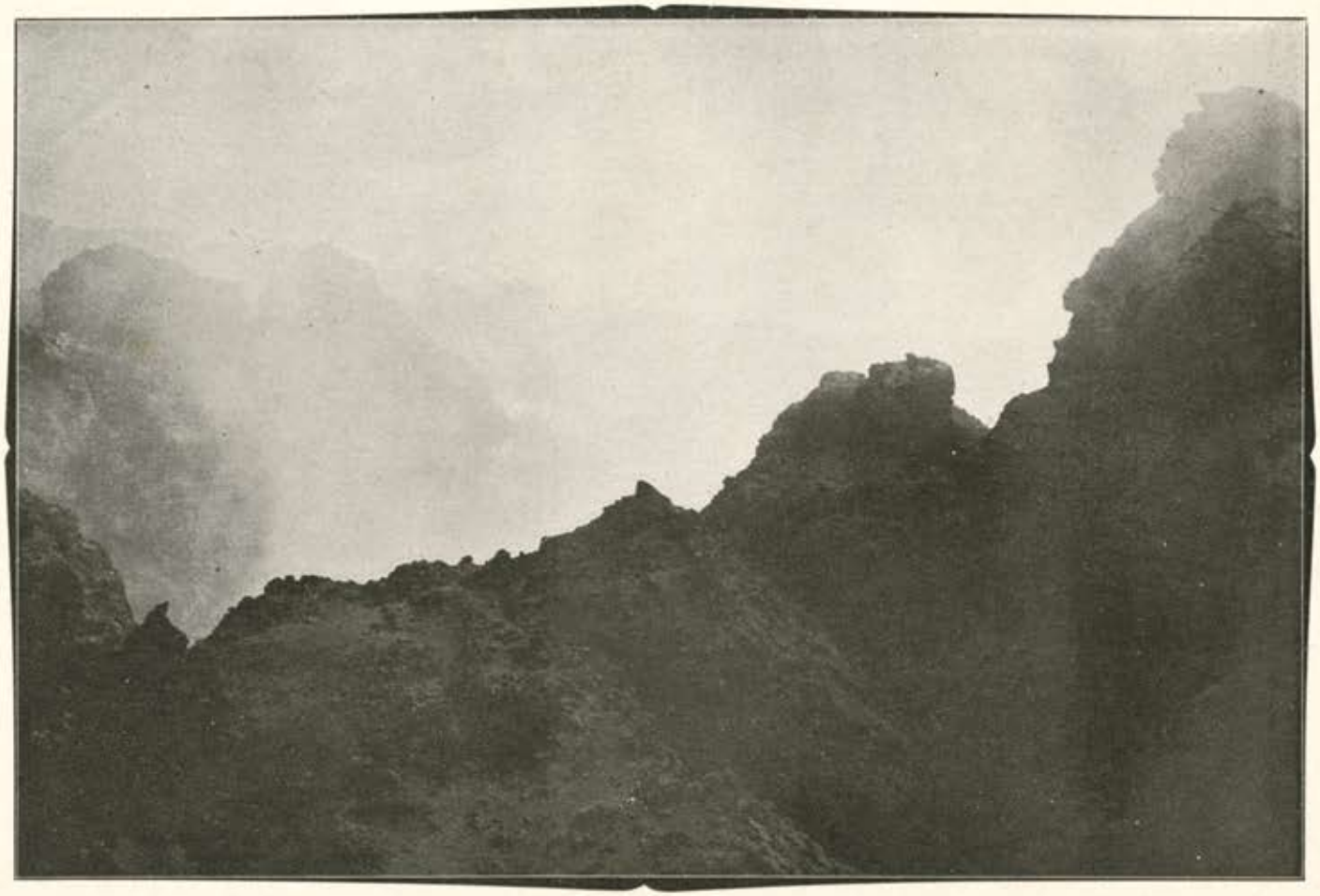


東櫻島方面第一噴火口

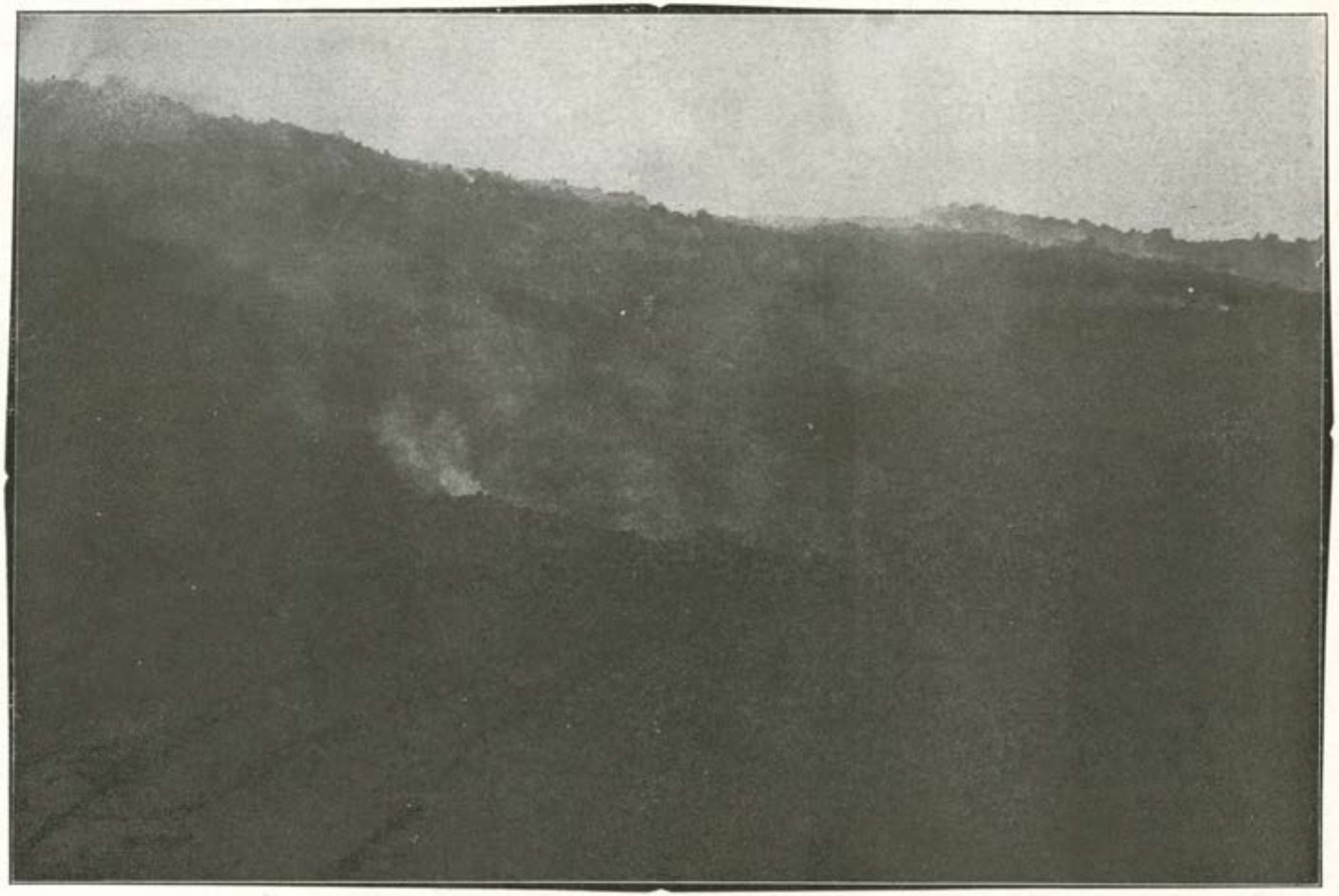


東櫻島方面第二噴火口（附近の山岳龜裂を生じ盛んに白煙を噴く）

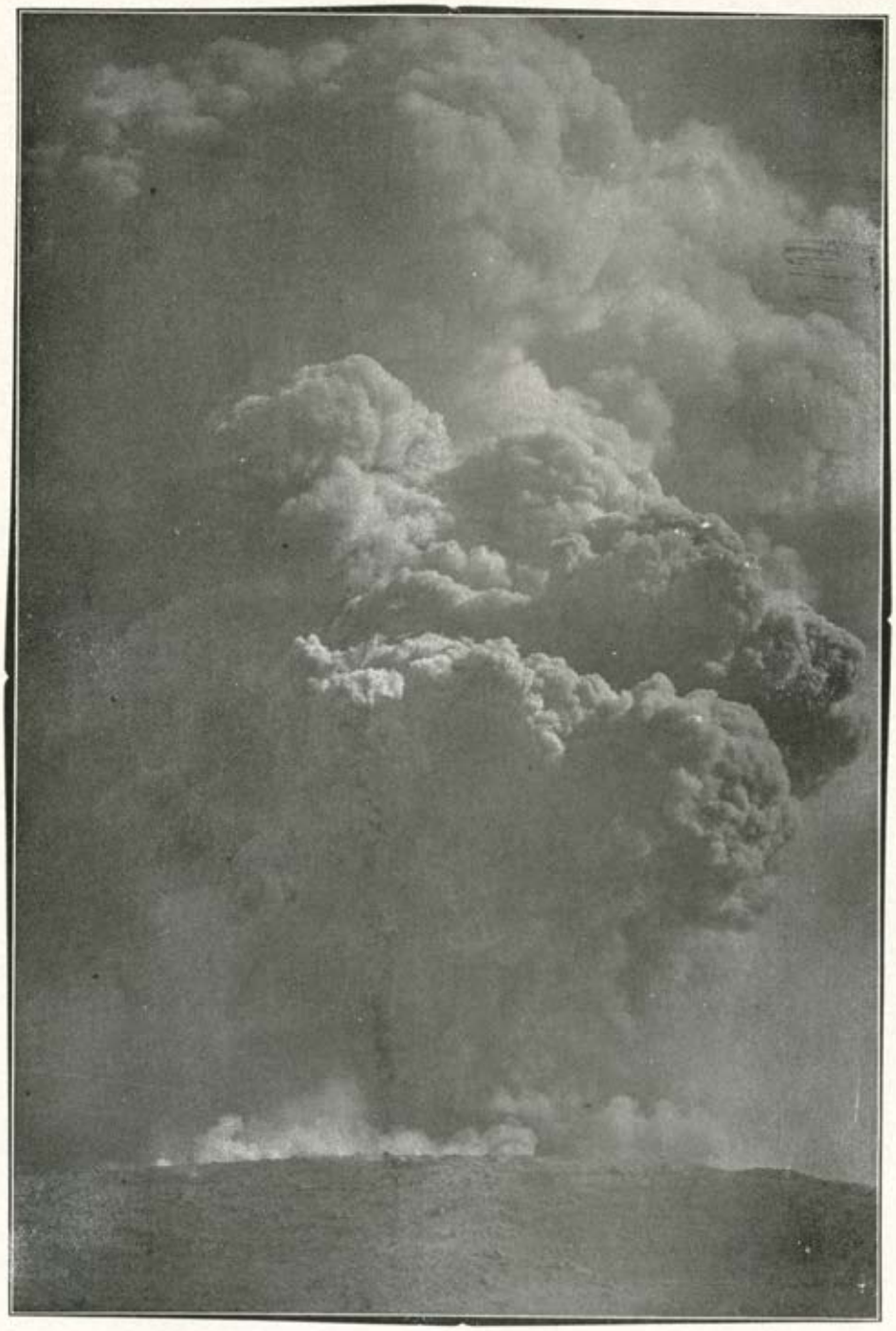
東櫻島鍋山の噴煙



前面最上位の噴火口



前面第二位の噴火(烏嶋へ通ずる大破裂口の東南位置)



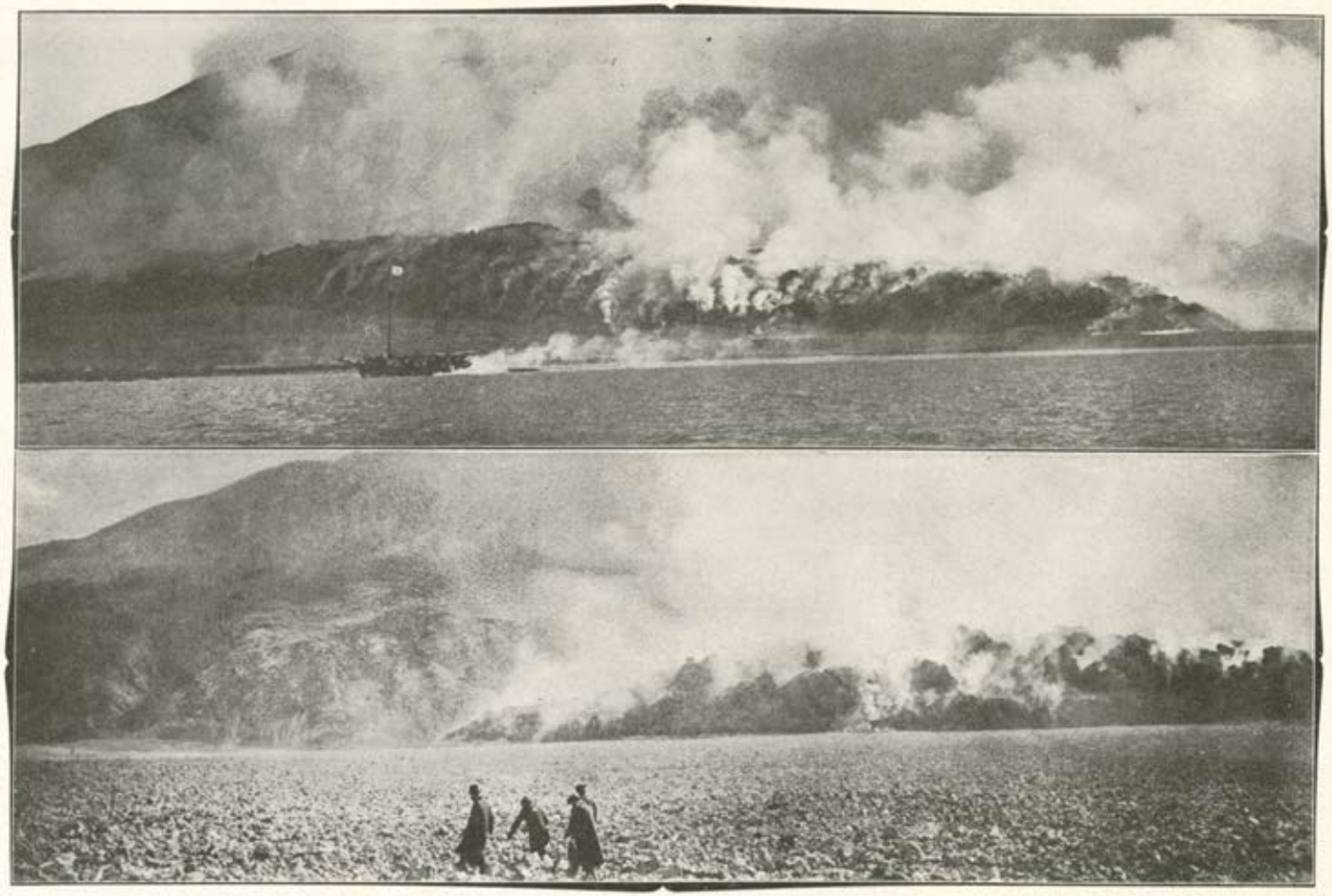
引ノ平より前面第三位火口噴煙を望む

赤水全滅跡より第四位噴火口を望む

黒焦となれる樹林（梢の搖れるは撮影の際滿山震動の爲め）

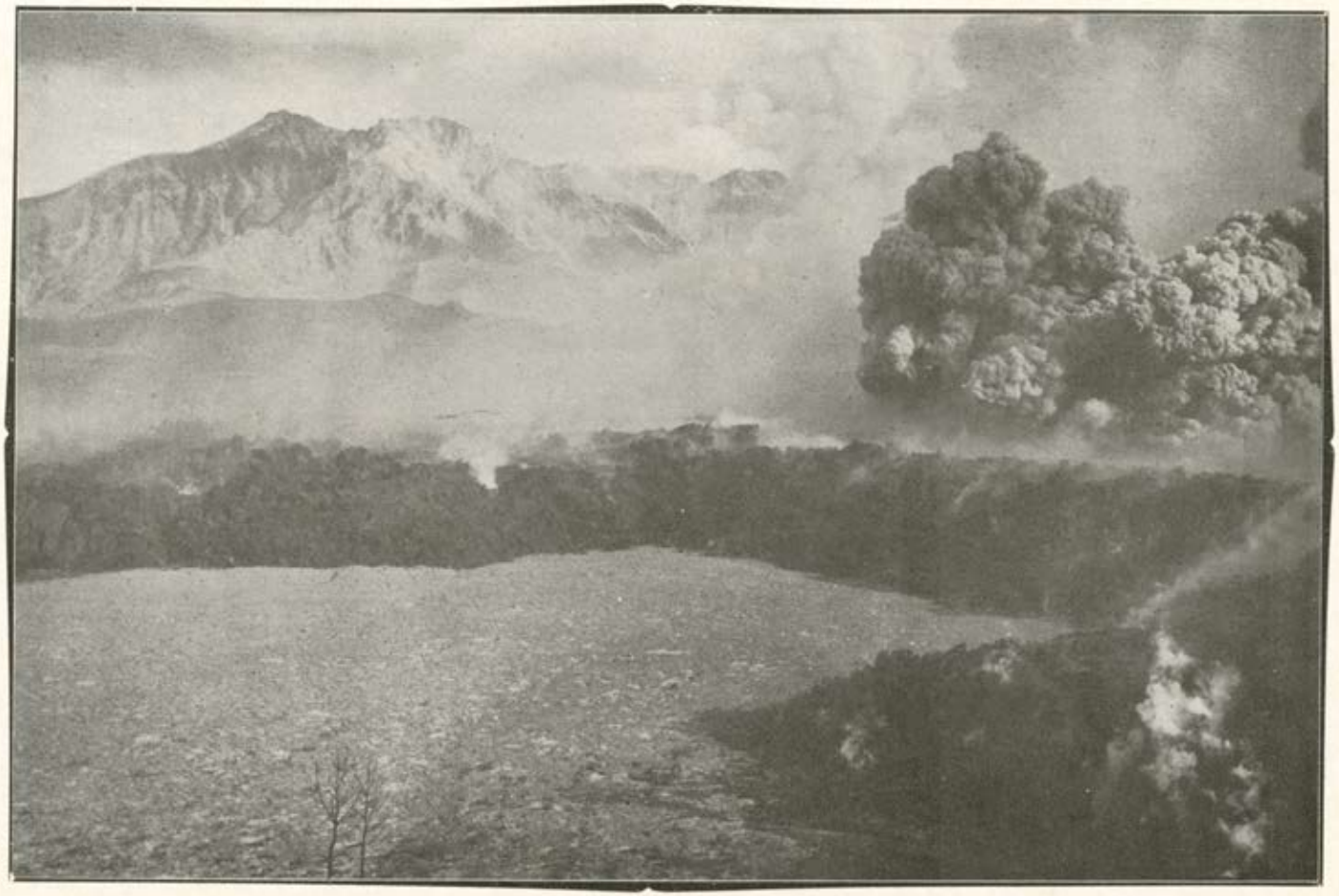
西櫻島村赤水部落全滅の跡

大阪每日新聞記者及第七高等學校學生探檢隊一行

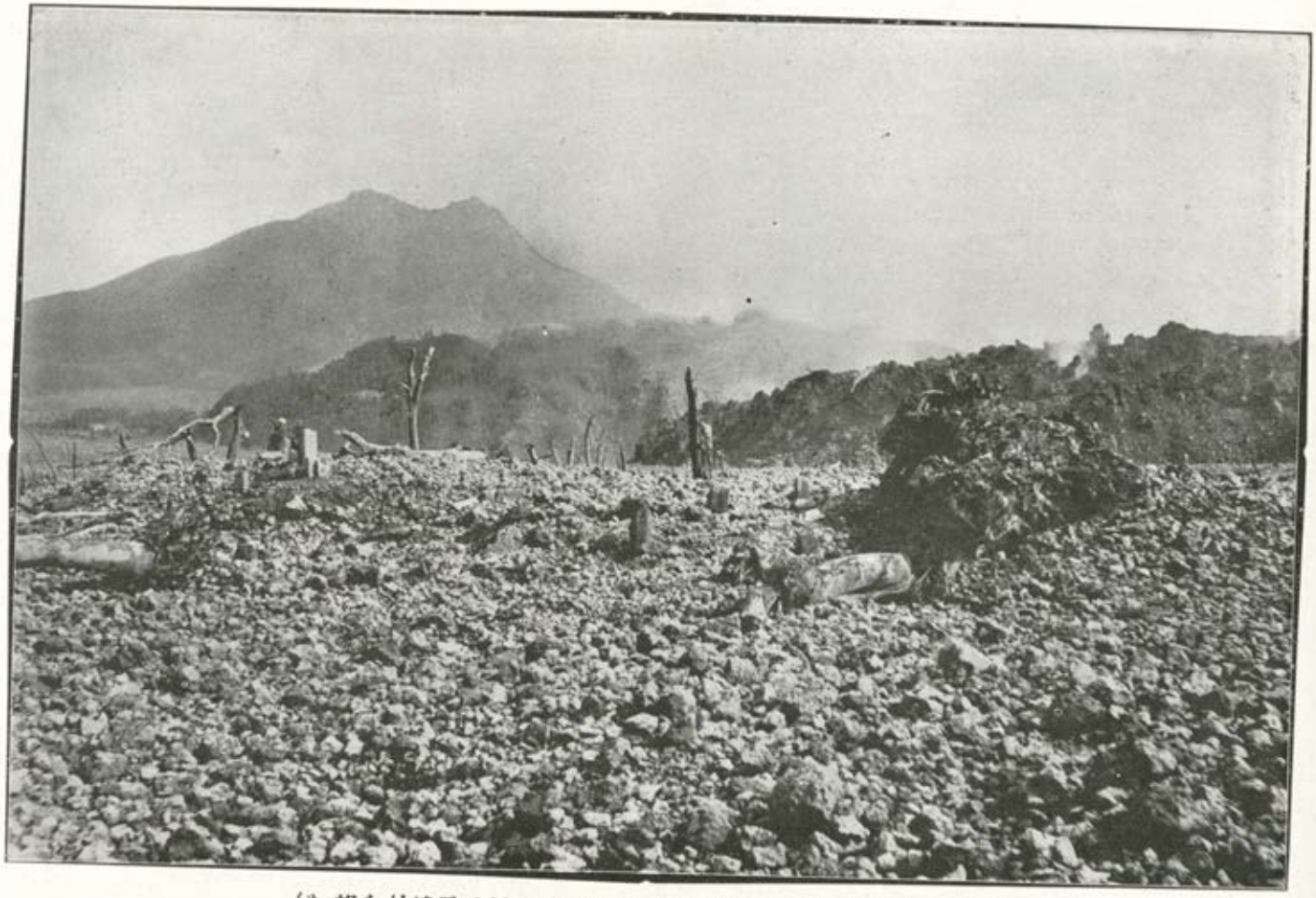


（上）十五日午后の光景（左に見ゆるは漁船の焼けるもの）　（下）探檢隊一行噴火口に向つて進む

一月十七日大阪毎日新聞社記者及第七高等學校生徒前面噴火口探檢

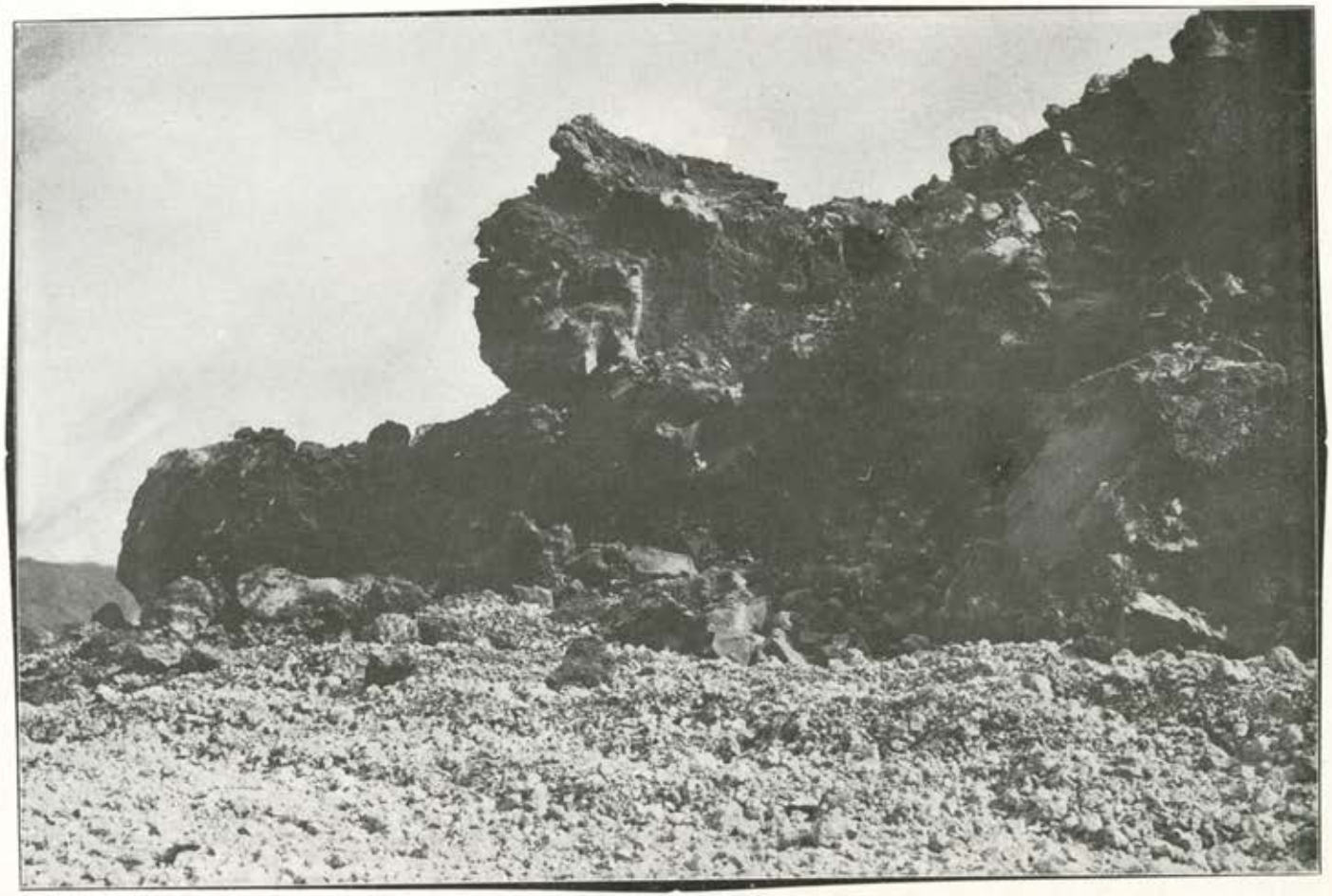


西櫻島村横山の全滅

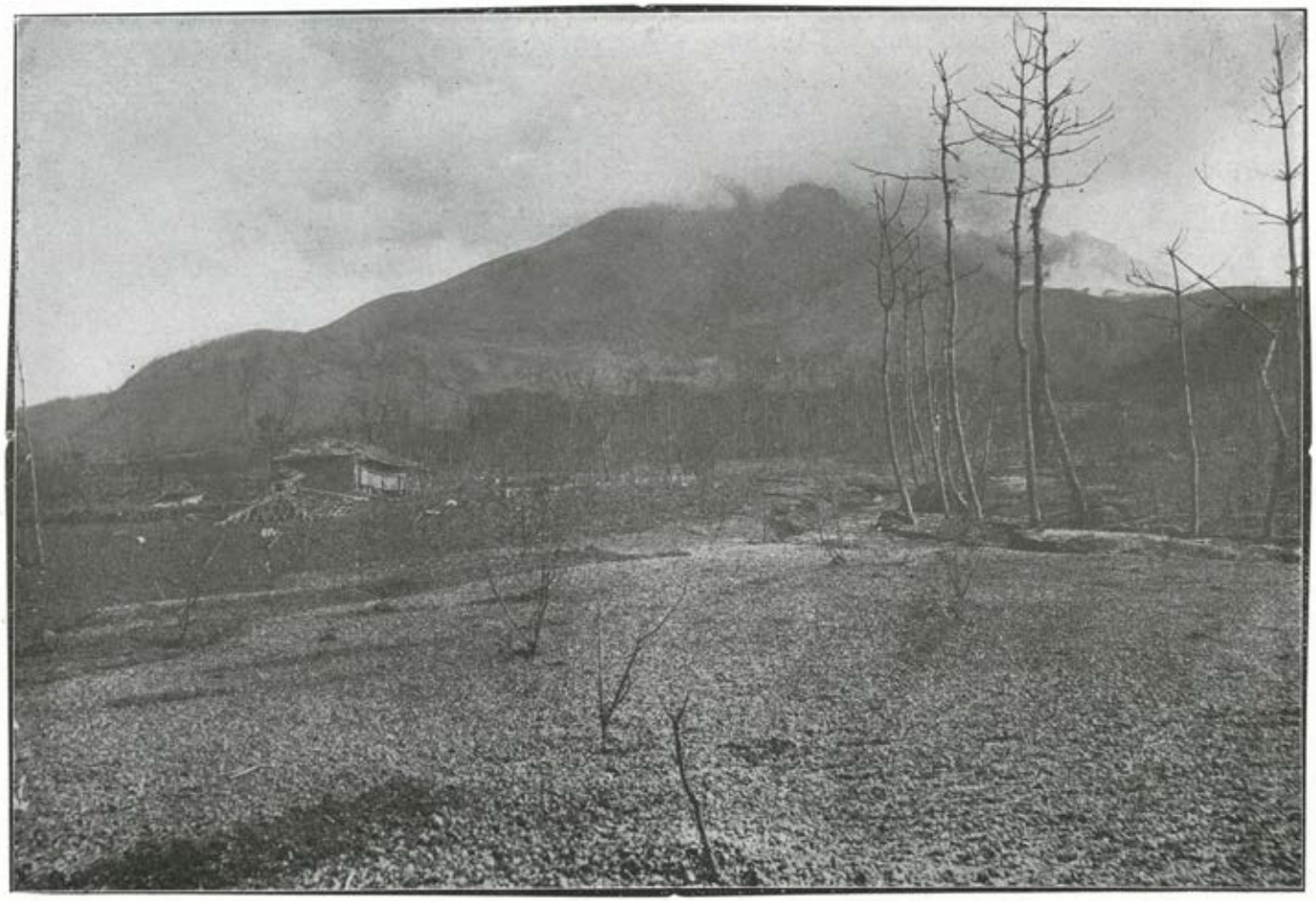


西櫻島村赤生原一帶の慘狀(遙に火口熔岩及燒林を望む)

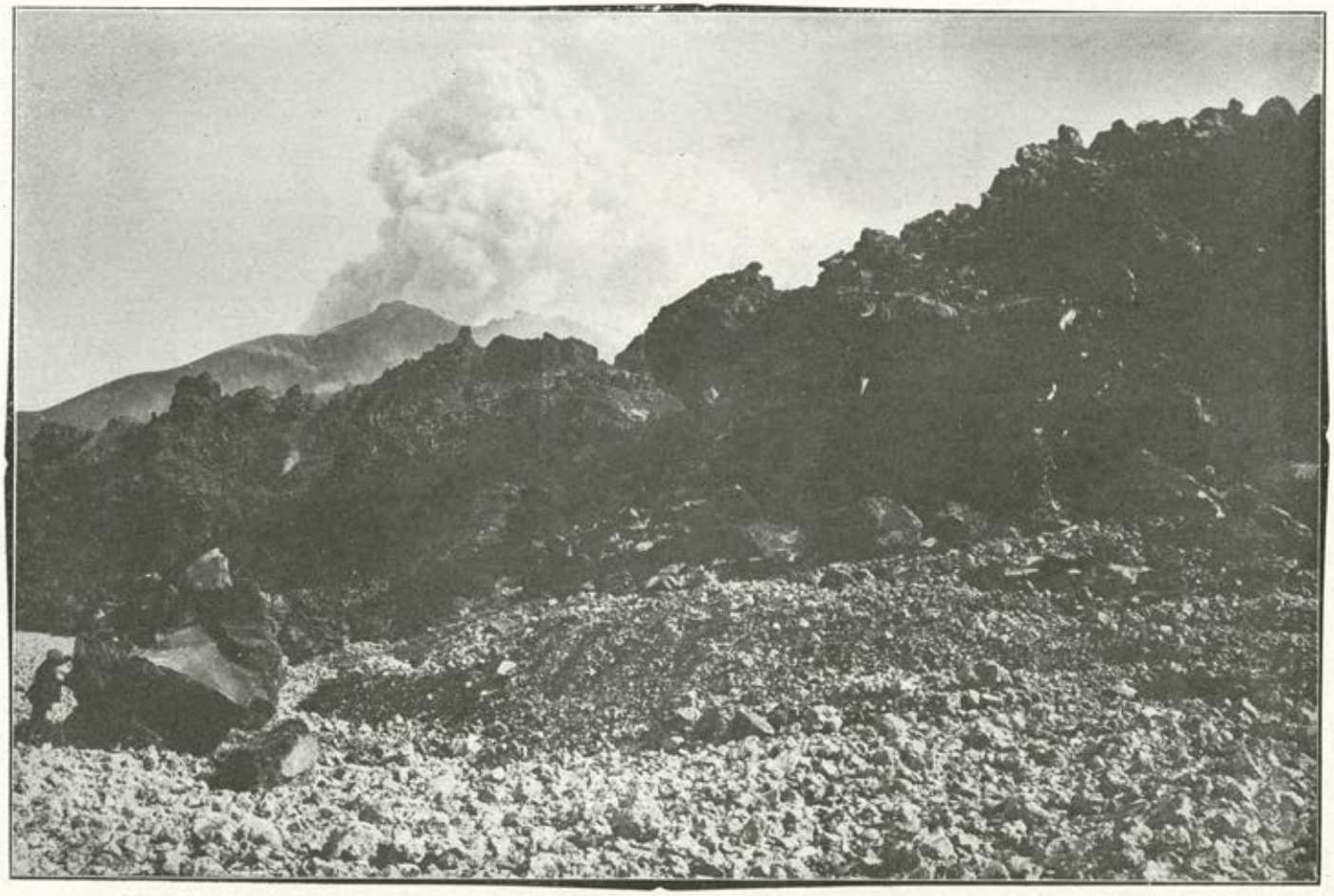
西櫻島村小池一帶の慘狀(全滅)



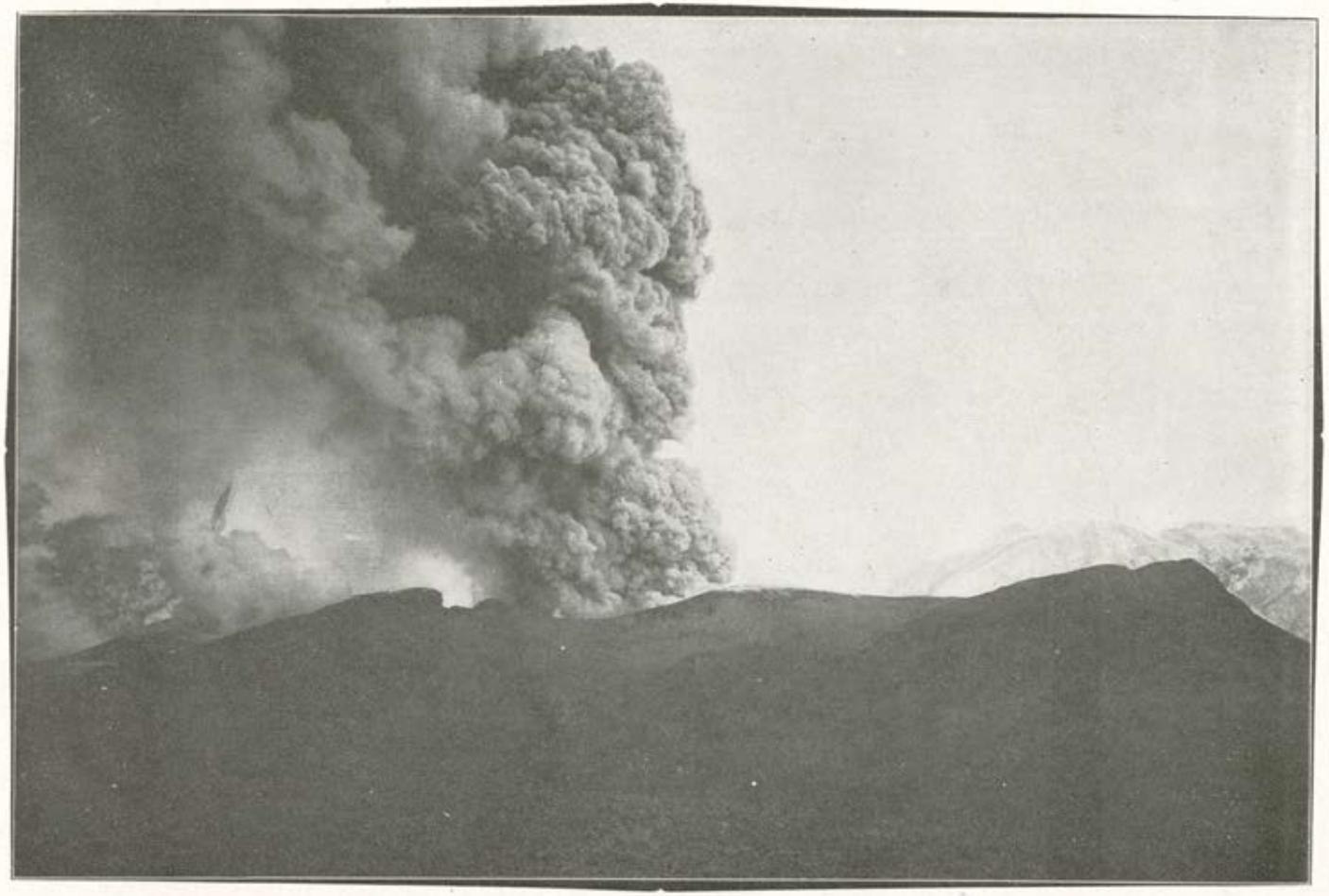
椅腰附近の熔岩及輕石廣原



西櫻島村武部落の燒林(避病舍附近)



西櫻島村横山部落熔岩及輕石の爲めに埋沒す



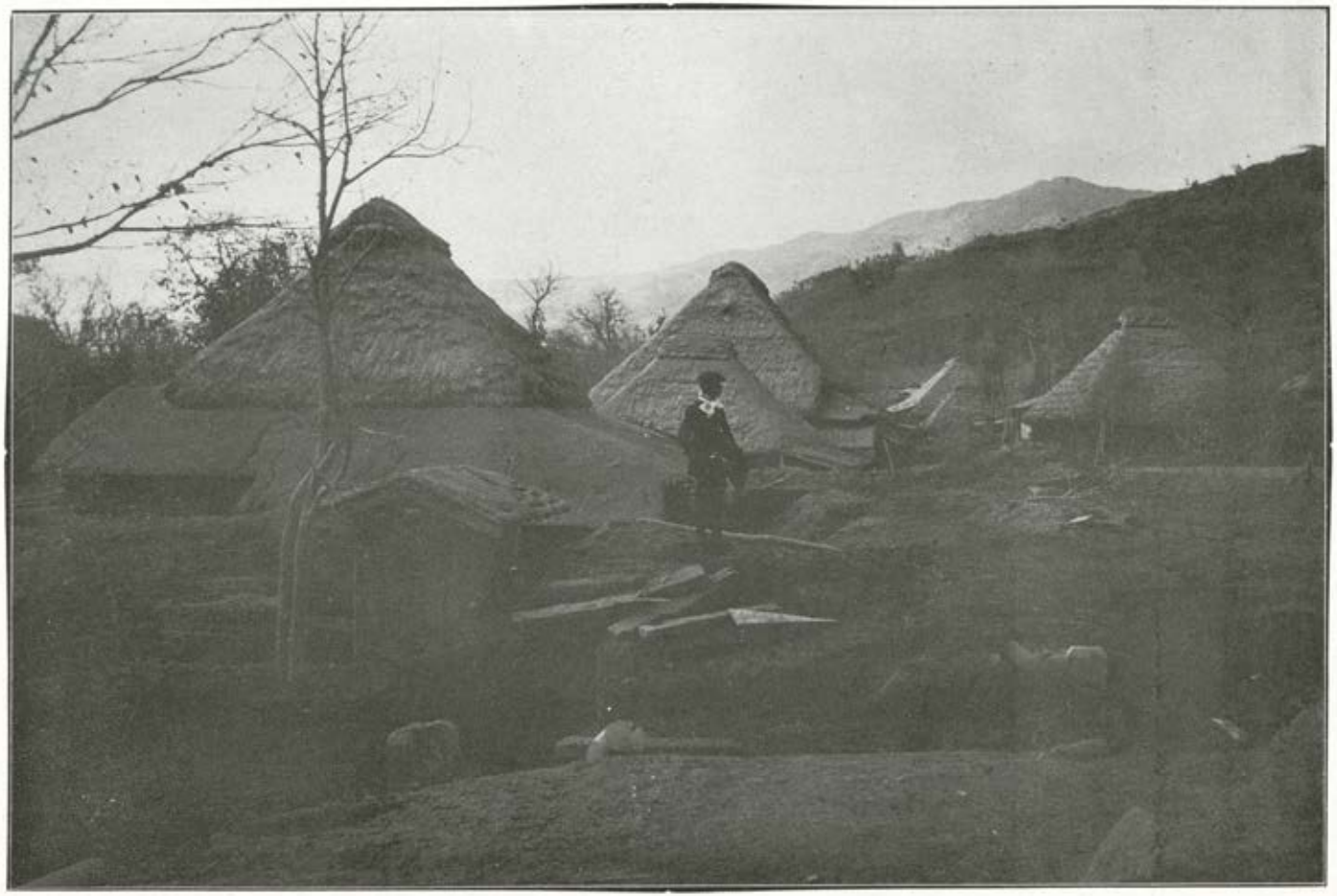
ヒエ ノ塚より鍋山全景を望む(噴火口は向つて左)

東櫻島方面灰石の廣原(堆積丈余に達す)

東櫻島村黒神の慘狀(神社附近の降灰一丈)

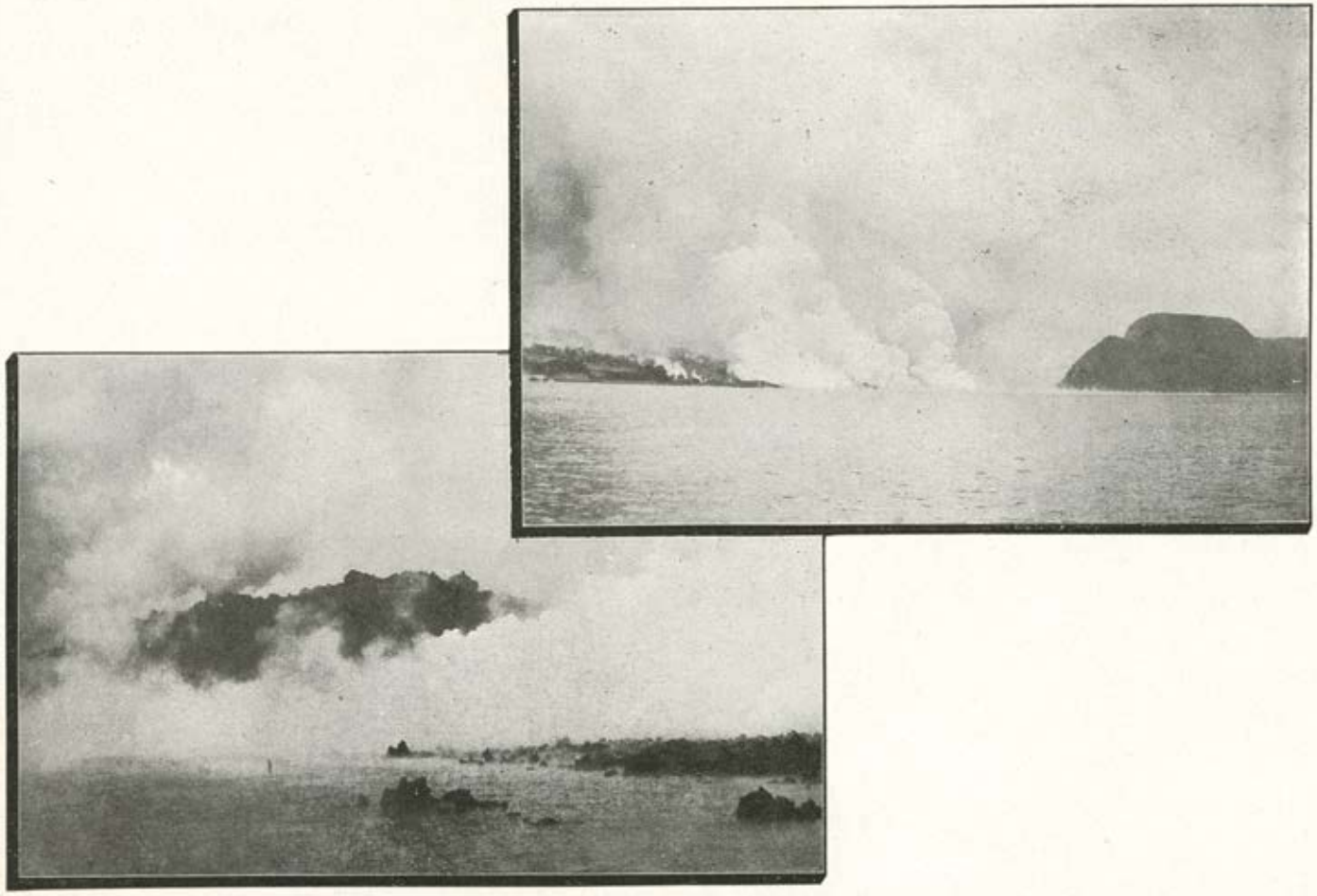
降灰の爲め埋沒せる黑神小學校

東櫻島村黑神の慘狀(降灰後洪水の爲め流失家屋多し)



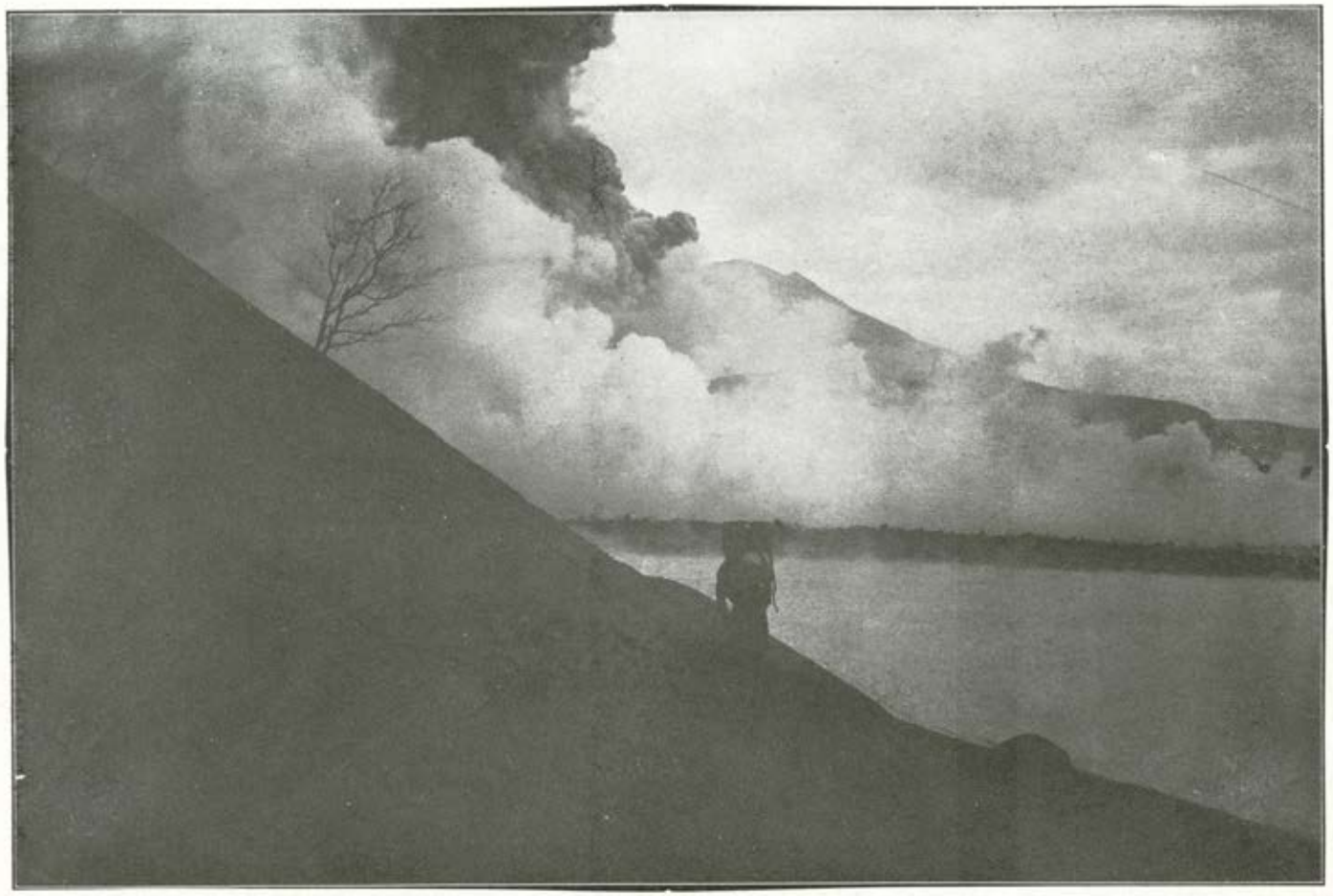
降灰輕石の爲め埋沒せる牛根村の慘狀

降灰中の牛根村より噴煙を望む

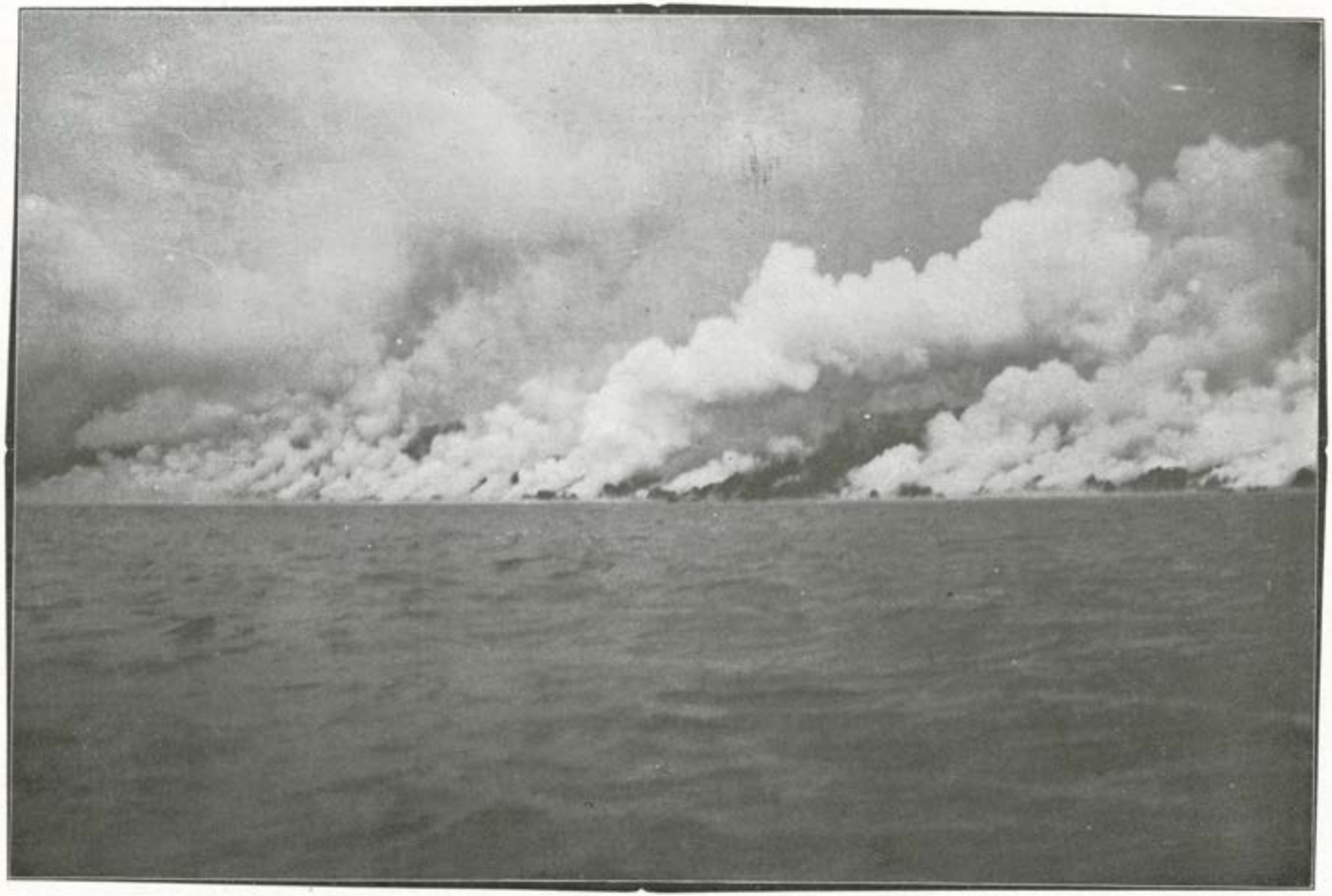


岩熔の岸海脇村島櫻東（下）　む進へ鼻柱戸岩熔の戸瀬（上）

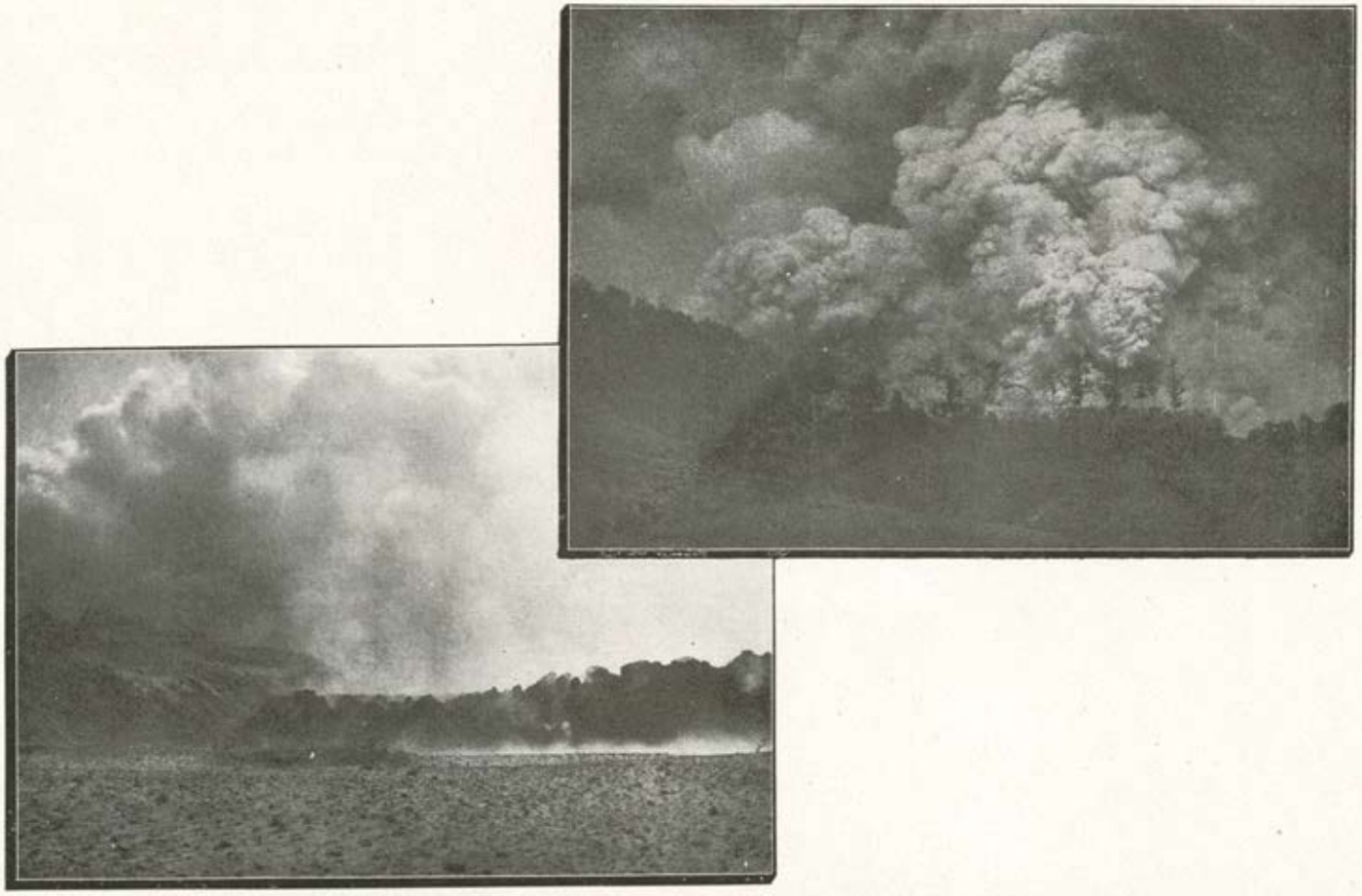
熔岩流出して櫻島大隅に接續し瀬戸海峽全く閉塞す



灰石堆積せる咲花平街道



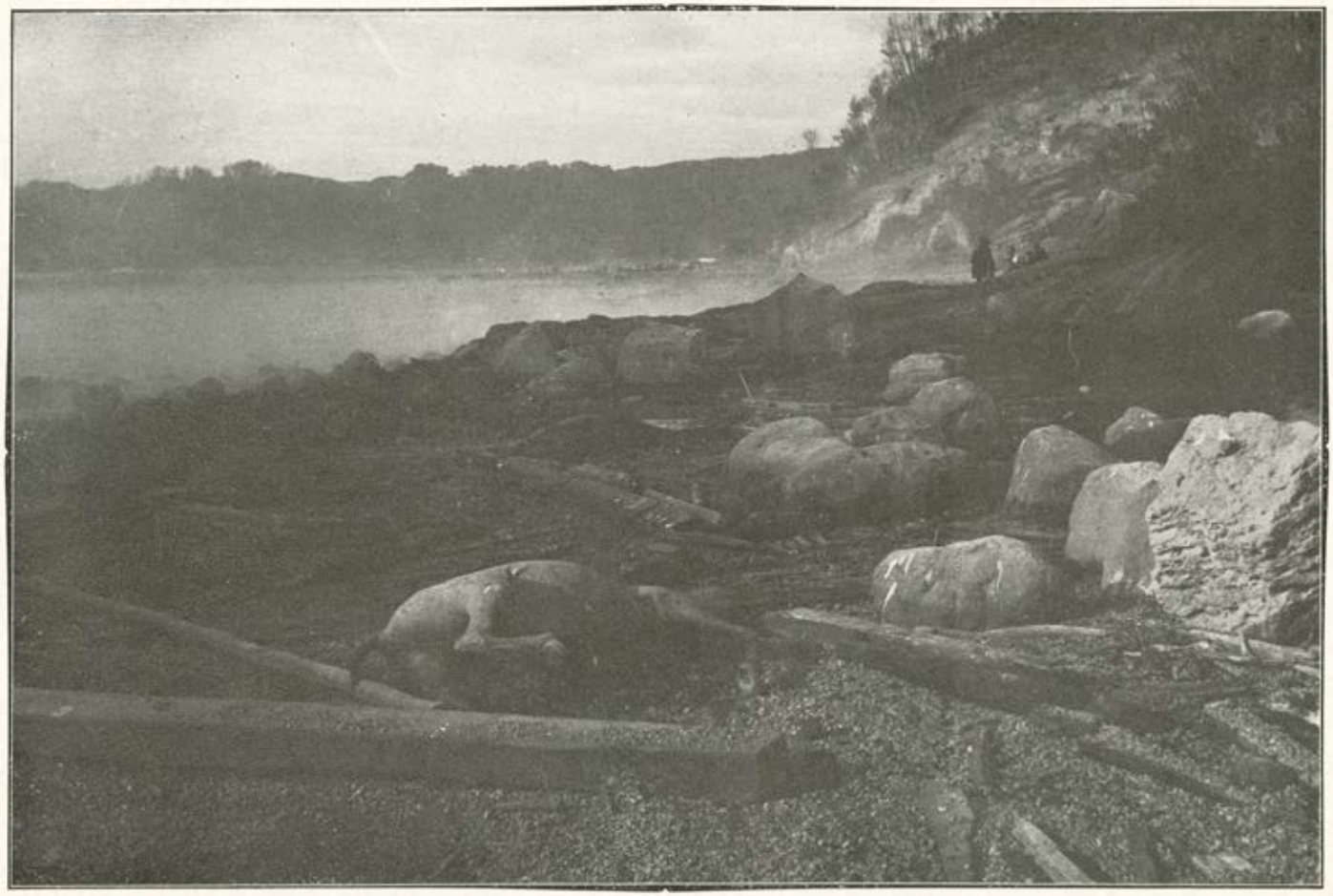
有村海岸熔岩の水蒸氣



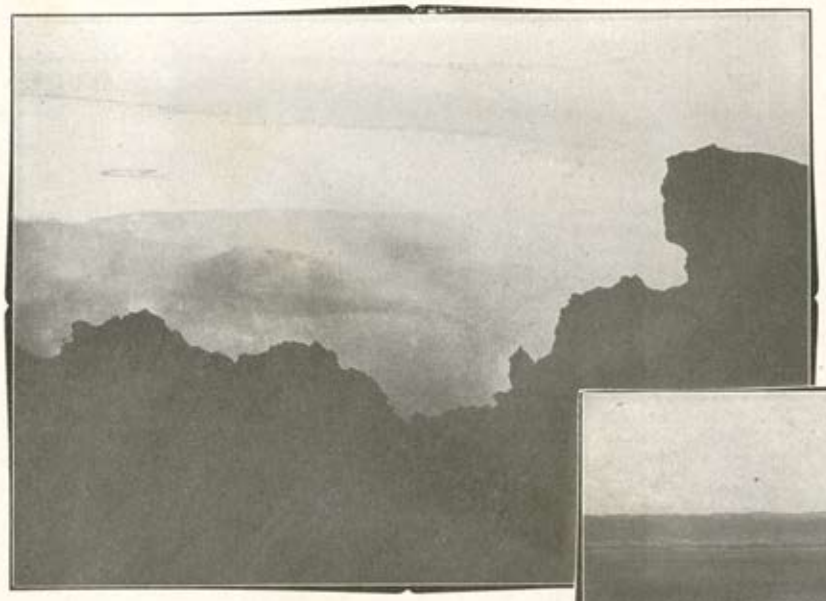
煙噴るた見りょ方上村有（上）　赤生原上方面熔岩及噴火口の一部（下）

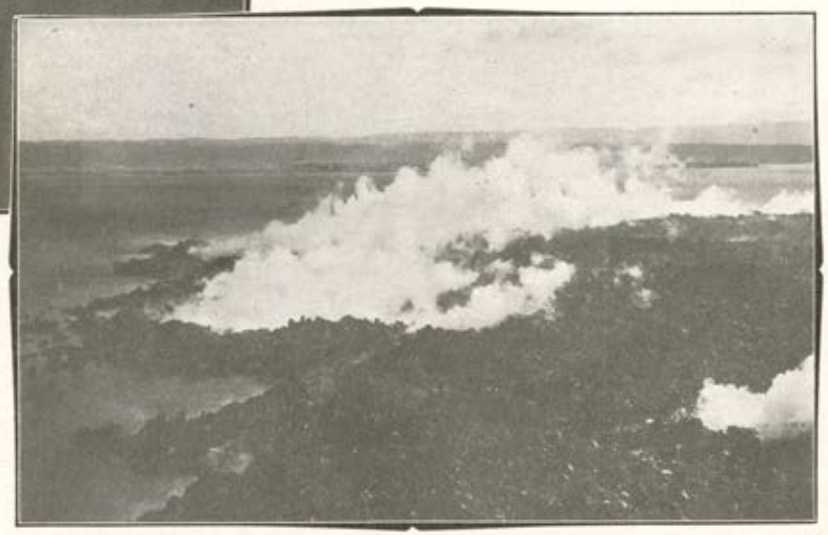
前面一帶猛烈に流出せる熔岩(峻嶮な熔岩圏を形成す)

前面の熔岩流出海中十餘丁に及び、海水熱し て寒中入浴に適す



西櫻島城山海岸倒壞家屋及牛馬の漂着



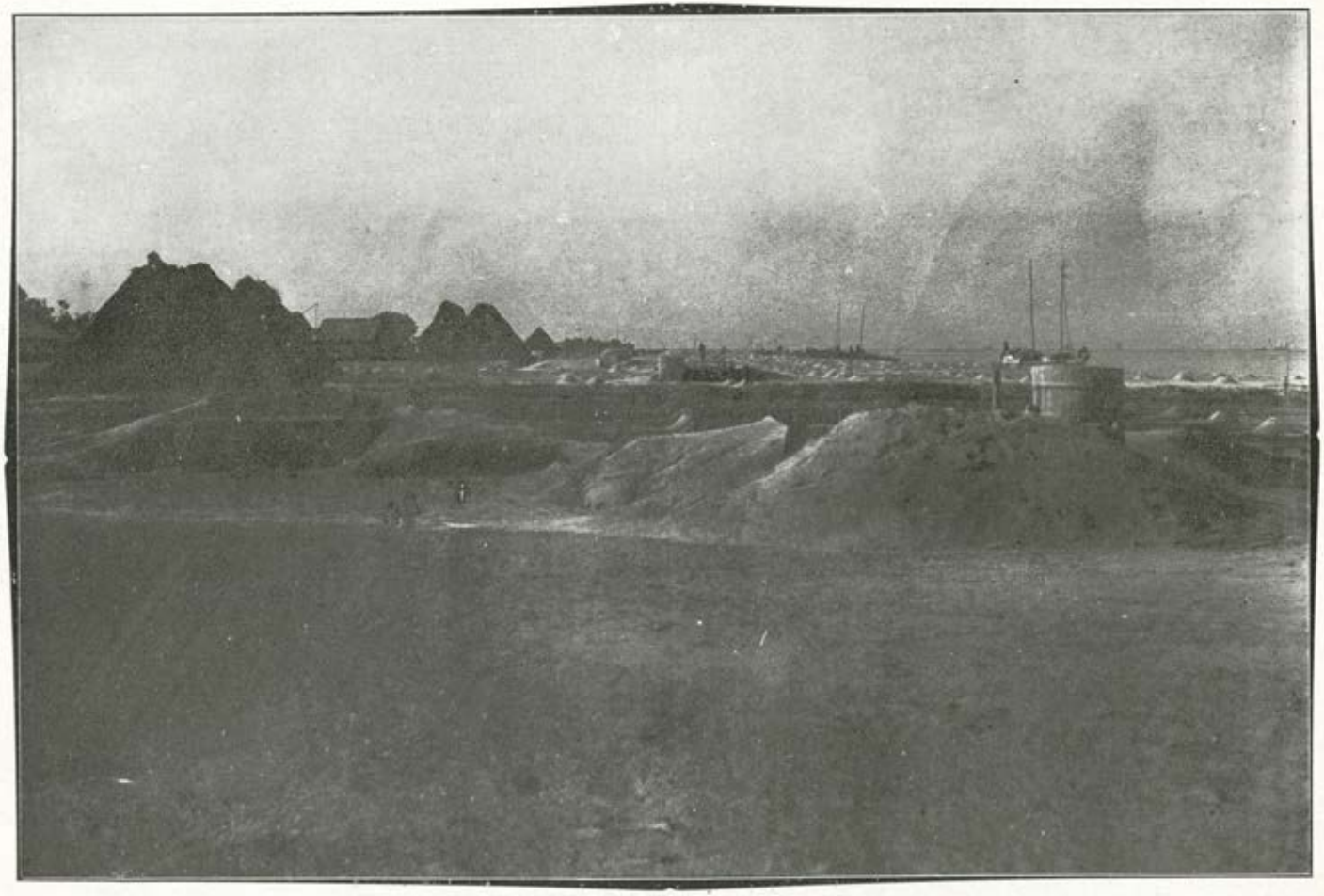


（す通噴裂破へ島烏てしと点起を處此）す望遠を瀬神りよ噴裂破位上最口火噴　（上）

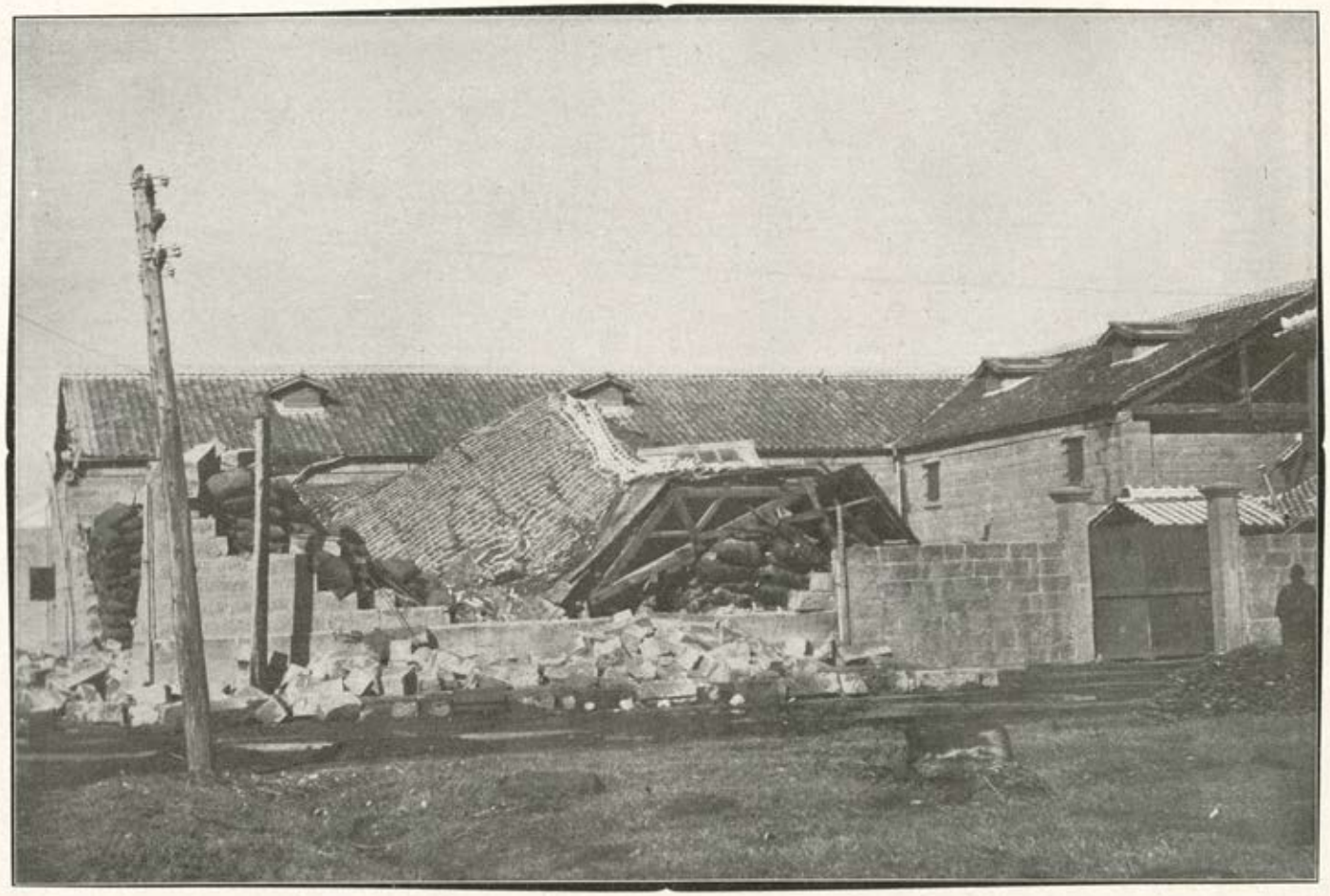
岩熔しせ出流へ中海るたし瞰俯りよ腰袴　（下）

大隅戸柱鼻附近の被害と牛根村避難民

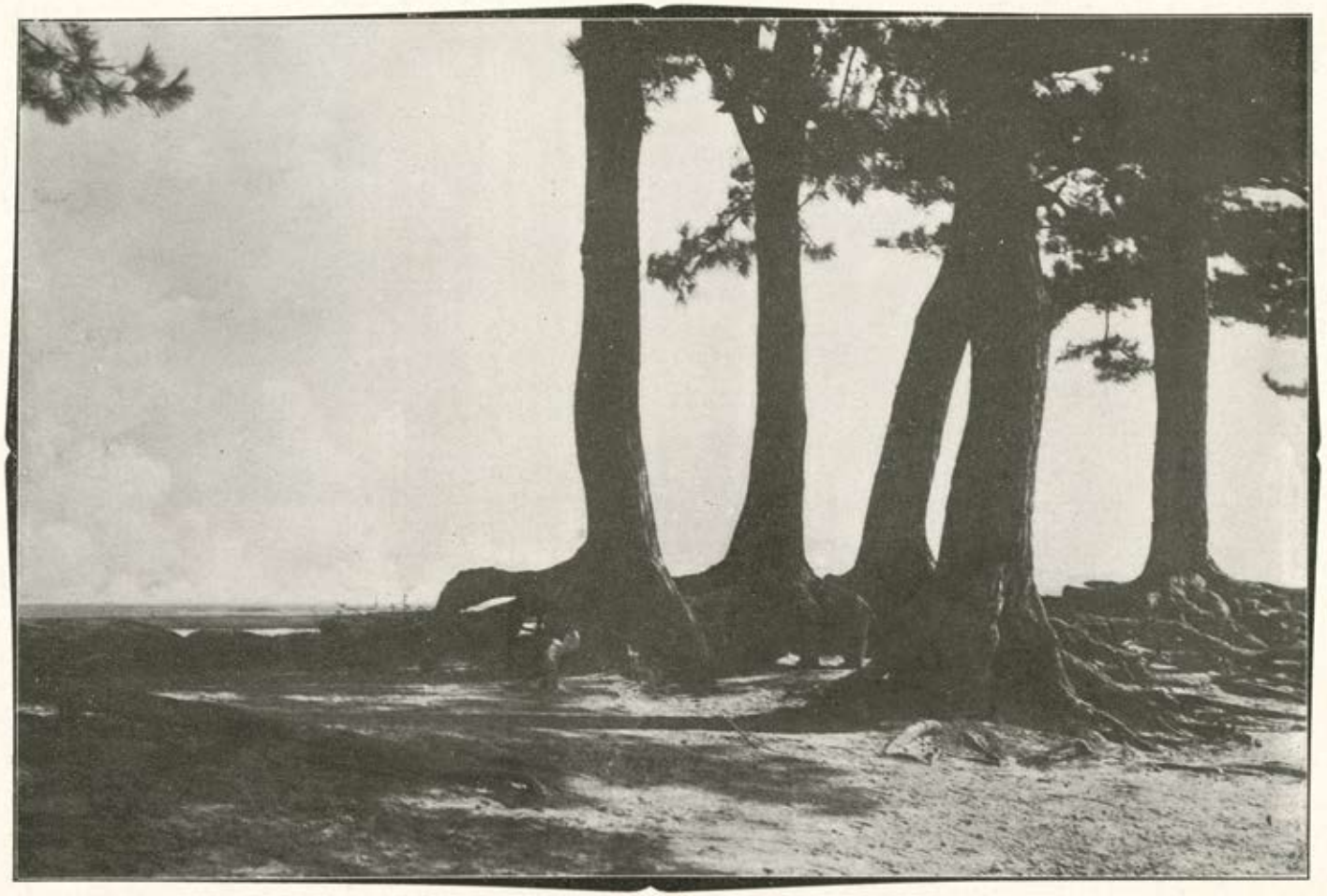
雪景の如き海嘯の惨狀



大隅垂水町の被害



鹿兒島市海岸通りの倒壞家屋



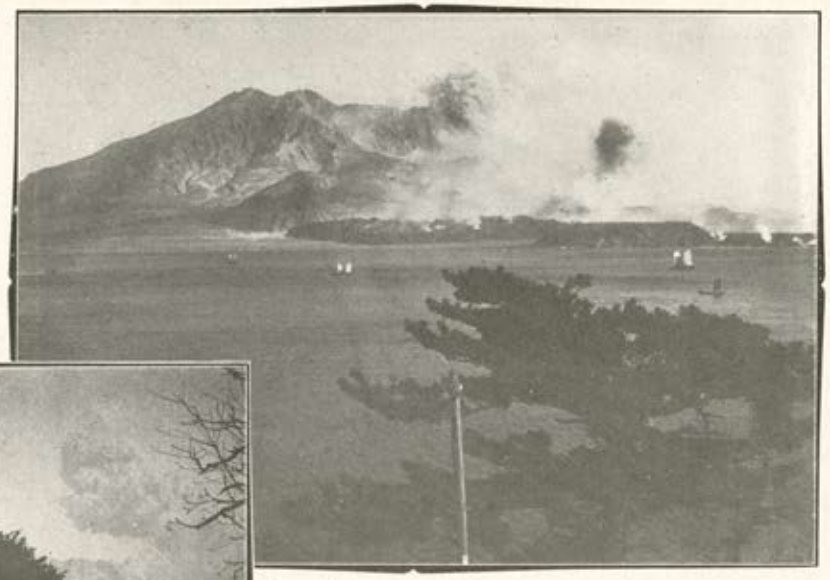
天保山より熔岩の水蒸氣を望見す

激震を蒙れる甲突川畔道路の龜裂

（院別寺願本西）所避難民災罹　（下）　　街市島兒鹿るせ灰降　（上）

袴腰に着せる慰問團隊及見學客船

噴火石（一名火山彈）



む望を煙噴島櫻りよ洲の園祇（下）　む望を島櫻るせ煙噴りよ磯（上）

變炎前の瀬戸海峡この間六丁餘水深百二十丁尋ありて艦船安全に通航得し處

◎櫻嶋大爆發記

地震

大正三年一月十二日は世界の火山史に新記錄を作れるの日なり、我國民の永久に忘るべからざるの日なり、實に世界の三傑として雷名を轟かしたる西郷南洲の出生地として、日本海に一擊大露のバ艦隊をして海底の藻屑と消ゆしめ、雄名を宇宙に輝やしたるアドミラル東郷平八郎の誕生地たる鹿兒島灣上一個の盆石の如く秀麗の姿を浮べたる櫻島の爆發して幾多の悲慘事を生めるの日なり。之れより先き十一日午前三時四十一分鹿兒島市に强震あり續いて地震發し實に翌日午前十時迄に總計四百十七回に及ぶ。多くは微震にして弱震以上のもの三十四回、其震動は主に水平動にして上下動は輕微にして稍急。

大爆發

十二日の空明けて戸障子の震ふ事夥しく、七万の鹿兒島市民は測候所の震源地は市の西北地方四五里の地点にありて、心配するに及ばずの報告を手にしながらも心安すんせず、如何になり行くべきか、爲す處なく唯だ恐るゝのみなり。十二日の午前八時、櫻島御嶽の西側に於いて雲霧狀の白煙上り、仝九時十分南岳頂上より同樣の白煙上るを見たりと、測候所の報告ありたるも、市民は神ならぬ身の櫻島の爆發分秒に近づき未曾有の悲慘事を演ずべしとは夢にも知らず。

同日午前十時轟然たる一大音響と共に西櫻島村字赤水の上方山腹四合目、人家を去る約二十町の處より、地殼破裂し濛々たる黑煙立ち登りしが次いで東櫻島字瀬戸の上方よりも黑煙凄じき勢にて立ち登る、スワヤ爆發と思ふ間もなく黑煙は分、秒毎に上へ〳〵と昇り行き、渦を卷きつゝ魔の襲ふ如く擴がりて空を俺ふ。火柱天に冲して中空に吹き飛ばされたる小家の如き岩石は海中に落下して水煙を潑し、噴出する石と落下する石と中空に相擊して火を發し、閃々として目を射り轟々たる音響は宛然、世界を呪ふに似たり、爆發と見るや三万の櫻島住民は度を失ひ取る物も取り敢へず、親は子を助くる能はず、子は親を救ふを得ず身を逃れて、漁船に乘じて鹿兒島港を差して避難し來る、斯くと見るや鹿兒島縣廳、鹿兒島市役所、鹿兒島警察署は救助船を出して人命の救助に努む。此の頃より市民も追々國鐵川内線に依りて東市來湯の元、東市來、串木野、川内、又は伊集院、或は肥薩線にて熊本、人吉を差して避難せるも一家の主人又は若者は尙ほ止まりてあり、斯くて午前十一時となるや東、西、櫻島は全然猛火に包まれて存在を認むる能はず、轟々たる音響と共に絶ゆず强弱震あり、負傷者は鹿兒島海岸に送致され、縣立病院其他にて應急手當を加へ、鹿兒島警察署にては海濱の襲來するの恐れあるを以て、警鐘を撞つて市民を警戒し、巡査、

消防夫の非常召集を爲して島民其他の避難を助けしむ、實に十二日午前十一時の黑煙の高き三千米突に達せりと言ふ。

此の日鹿兒島市民は殆ど生きたる色もなく、唯騷然たるのみにして市内は各戸戸締を爲して市内を右往左行するのみ、恐るべき一日は漸く暮れて午後六時半となるや、百雷の落つるが如き一大音響と共に、大地震起り大地に立つ能はず、家は倒れ或は傾き救ひを求むる悲鳴、物の壞るゝ音、同時に電燈、瓦斯一時に消滅したる事なれば、其混雜慘狀名狀すべからず、然かも電信電話不通となり肥薩線路破壞したるを以て市民の驚愕絶頂に達し、號泣叫喚四邊に滿つ。市民の多くは國道より伊集院方面に向つて徒步避難したるが沿道人を以て埋め、老人を助けて逃ぐる者、病人を押車に乘せて行く人、子を負ひて泣きつゝ左右に子供の手を引ける母、髮を亂し白足袋のまゝ狂人の如く泣き叫びつゝ走る令孃、慘憺たる有樣目も當てられず、小山田、中川、中伊集院町及び其附近の各部落は悉く人を以て埋まり、路傍に藁を敷き火を焚いて暖を取りつゝ夜を明かせる者多かりき。

第一回の爆發

十二日午後六時三十分の大地震後、鹿兒島市民は悉く避難し殘れるは警官と消防夫、步兵第四十五聯隊の警戒せるのみなりしが、其の夜は火光天に冲して頗も燒る計りにて轟々たる音響尙ほ止まず。十三日午前一時前後は殊に旺盛を極め天柱挫け地維缺ぐるかと怪まれたるが、同午前六時頃より少しく減退したり、然れ共日中は尙ほ間斷なく鳴響を發し噴煙實に壹万六千尺に達せり、同日午後八時十四分、第二回の大爆發あり、蓋し今次の爆發中最も强烈なるものにして、西櫻島の噴火口よりは火と共に盛に熔岩を噴出し爆聲を連發して黑煙、東方に靉びき加ふるに雷鳴を以てし、閃電縱橫に放射して壯觀例ふるに物なし。前記の如く盛んなる噴煙と共に降灰四方に飛散し、最も甚しかりしは國分、加治木、重富に達し、遠く福岡、宮崎、安藝の宮島、四國の高知、大阪、神戸、東京に迄及びたるが如何に其の猛烈なりしかを覗ふに足るべし。

十四日以後の狀況を鹿兒島測候所の記錄より摘記すれば

▲十四日　午後一時以後の噴火は尙ほ盛んなるも鳴轟稍々減退す、七時熔岩の噴氣爆發盛んなるを見る、此の熔岩は前夜流下せるものにして城山(櫻島の内)の上方約五丁ばかりの距離迄押出し其幅員凡そ二十町高さ數十尺に及ぶ、城山より冲子島附近の海面は一帶に輕石に滿ち黑灰色を呈せしも正午迄流失す、午後五時頃より熔岩の噴煙稍衰ふ。

▲十五日　噴火の狀況は著しき異狀なく稍減退せしが如く、大熔岩は徐々流下して海中に入り烏島に向ふ、十一時より轟鳴稍强大となる、午後三時十分大噴烟あり、五時十五分轟聲止む、十時噴火大に衰ふ、同十時二十分山麓熔岩上一列に七箇の噴火口連り音響强し。

▲十六日　午前十一時四十分轟鳴一時止む、四時五十分轟鳴强く噴火盛んなり、九時聲響減少す、九時五十五分大音響あり、午後一時二十五分大音響と共に噴烟盛んに上昇す、九

時三十二分強大なる音響あり。

▲十七日　噴火著しき變化なきも風位東變して北薩地方に降灰す、午後一時火炎盛にして音響強し、三時、同二十五分、三十四分噴火音響強し、四時三十分市内に降灰し始め、同五十五分滿天噴烟の爲め島影を沒し、同八時降灰濃密四邊朦々として九時十分、全く暗夜の如し同十一時に至り漸く明し。

漸く閉熄

斯くの如くにして噴火は漸次日を經るに隨つて減退し、西櫻島方面の噴火は閉熄したるが鍋山方面は尙ほ(三月一日)盛んに噴烟して時々轟鳴を聞く。

天聽に達す

櫻島爆發、附近一帶非常なる慘害を被りたる事　天聽に達したれば　聖上陛下は御軫念あらせられ侍從日根野要吉郎氏を御差遣あらせられ實況を調査せしめられたれば、十六日日根野侍從は鹿兒島に入り、十八日第二艦隊驅逐艇に搭乘して渡島し親しく視察する處ありたるが避難民は何れも　聖恩の優渥なるに感泣せり。

大森地震博士

東京帝國大學教授理學博士大森房吉氏は一月十六日鹿兒嶋に入りたるが、之れより先き鹿兒嶋に於いては、今次の爆發が如何なる性質の物なるか又今後如何に經過すべきか等は全く不明にして、全市の避難者を初め被害地一帶の人心恟々たるものあり、大森博士の速に來着して確實なる意見を發表せられん事を、旱天に雲霓を望むが如く一同鶴首したりしが十八日鹿兒嶋縣會議事堂に於いて、今後心配するの必要なしと斷言するや、初めて安堵して歸還するもの漸く多く漸次秩序も恢復するの端緒を開けり。

爆發と熔岩

爆發後、熔岩の噴出流下盛んにして横山方面は海中に流下し、横山、赤水の兩村落を埋め海中に突出する事約十五六町海水、蒸氣と化して白烟朦々として海水湯の如し。鍋山方面も熔岩の流出盛んにして有村の一部、脇、瀬戸、黒神の一部の村落は熔岩に埋められ瀬戸海峽を埋めて二月一日に至りては遂に大隅の國中根村字咲花平と接續し陸續きとなれり。此の附近湯の熱する事、攝氏の七十度に達し魚の死せる者多かりき。

爆發と被害額

櫻嶋爆發に依り被害を受けたる個所は頗る多く、其慘狀實に目も當てられざるものあるが鹿兒嶋市にては十二日午後六時半の地震にて、石垣悉く倒壞して人を押し殺し、家屋の倒壞、半倒なるもの多く姶良郡より、櫻嶋の東部に當る大隅國の肝屬郡牛根、二川地方は田畑に灰、輕石の積む事三尺余、田畑悉く埋まりて再び耕作すべからず、櫻嶋は全國に有名なる大根と蜜柑の產地なりしが悉く燒失し、又は灰に埋められて跡なく實に爆發に依りて慘死を遂げたる者三十五名、負傷せる者百二十一名にして多くは石垣崩れたる爲め推し殺れたる者にして、殊に鹿兒嶋市の西方一里天神ヶ瀨戸にては避難の途中崖崩れて十余名を生埋めとせり、何れとして悲慘の極にして聞くもの涙の種子ならざるはなく、葬式も出來得ず、莚の上にて僧侶が一遍の讀經にて成佛せるもあり、葬むるに金なく空しくなれる屍を抱いて一日泣き續けたるもあり、見る〳〵食はすに食物なく、父を餓死せしめたるあり又は小兒を脊に負ひて避難し、小兒を下し見れば已に冷たくなりて死せるあり、人生の悲慘事を盡せり、然して今回の爆發によりて櫻嶋及び其他にて受けたる被害は左記の如くなるが、櫻嶋の內全滅せるは横山、赤生原、小池、赤水、有村の一部、黑神の大部、瀨戸、脇の各部落にして、爆發に依りて農作物の受けたる被害百三十一万三百圓、土地の被害二千八百九十八万五百三十六圓、茶園、桑園、果樹其他の被害九十六万四千九百余圓にして總計三千百二十五万五千八百十六圓の多額に達せり。

避難中に出產

スワ爆發と言ふや避難せる者の內には妊娠中にして五六ヶ月の者もあり、又は臨月に及びて今日をも知らぬ者あり、避難地にて驚愕の余り流產せる者あり、東櫻嶋村高免竹山次郎妻カメマツは十一日の夜男兒を分娩し產褥のまゝ避難し、姶良郡福山村横山某の妻フジエ(二五)外八名爆發の夜又は翌日出產し、元より產婆も居らざれば一同が集りて始末せし由にて一人は木の根を枕に男兒を生み木根男と名づけたりと。

大正三年三月五日印刷
仝　年三月十日發行
仝　年四月一日再版發行

正價金壹圓參拾錢

著作兼發行者　山下德之助
仝　坂野青峰
名古屋市中區南園町乙十番戸
印刷者　坂野悅治郎
名古屋市中區南園町壹丁目
印刷所　浪越寫眞製版所
鹿兒島市東千石町五十六番地
發行所　山下寫眞館

不許複製

賣捌所

鹿兒島市仲町　吉田書房
仝市東千石町　金光堂
仝市仲町　谷村書肆
仝市東千石町　誠進堂書店